令和6年度

# 研 究 紀 要

学習指導案

研修レポート

授業アンケート

秋田県立西目高等学校

第２学年保健体育科(科目　保健)　学習指導案

日　時 : 令和6年8月３０日（金）
場　所 : 秋田県立西目高等学校

１　単　元　名　生涯を通じる健康　（イ）労働と健康

２　単元と生徒

（１）単元観
「労働と健康」については、労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことを理解できるようにする。また、労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善を含む健康管理と安全管理が必要であることを理解させたい。まずは何のために働くのか、どのような職場や条件で働きたいのか労働についてイメージを持たせ、働くことへの関心を高めながら自身の人生と関連付けて考えられることができるようにしていきたい。

（２）生徒観
メリハリをつけて授業を受けることができるクラスである。しかし、発問されれば回答をしようとする姿勢はあるが、積極的な発言はあまりない。自身の意見を文章で表現することはできるので、それを基に他者との意見交換を積極的に行わせられるように工夫をしていきたい。

（３）指導観
単元を通し、グループワークやペアワークを効果的に活用し、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方に基づいて、労働における健康課題を理解するとともに、その解決に向けて思考・判断・表現できる力を育みたい。

３　単元の目標
（１）労働災害と健康や働く人の健康の保持増進について、理解することができるようにする。　（知識）
（２）労働と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明できるようにする。　（思考力、判断力、表現力等）
（３）労働災害と健康、働く人の健康の保持増進について、自他の健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。
（学びに向かう力、人間性等）

４　単元計画　労働と健康(３時間)

| | | | |
|---|---|---|---|
| 主な学習内容 | 第１時 | 第２時 | 第３時 |
| | 働くことと健康(本時) | 労働災害と健康 | 健康的な職業生活 |
| | ○働くことと健康の関わりについてワークシートやグループワークを通して考えを深める。<br>○現在の働き方や健康問題の変化に気付き、現代の健康課題を考える。 | ○グループで労働災害が発生した事例をもとに、労働災害の要因や背景について話し合い、労働災害防止に必要な条件や環境を考える。 | ○職場の健康管理や心身両面にわたる対策の重要性について理解する。<br>○職場における健康づくりや余暇を含めた生活の質の向上と健康の保持増進について考える。 |

５　本時の計画

（１）本時のねらい　「現代の労働と健康に関する課題を導き出す」

（２）本時における具体の評価規準

| 知識（A） | 思考力、判断力、表現力等（B） | 主体的に学習に取り組む態度（C） |
|---|---|---|
| | ○労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見することができる。 | |

（３）展開

| | 生徒の学習活動 | 指導上の留意点と手立て | 評価と方法 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>１０<br>分 | １　本時の学習内容と目標を確認する。<br>目標　「現代の労働と健康に関する課題を導き出そう」<br>２　働くことの意義について考える。<br>・働くことの目的をワークシートに記入する<br>・働く意義についてまとめる。 | ・本時の学習内容と目標を提示し、学習の見通しを持たせる。<br>・ワークシートに自分の考えを記入させる。<br>・全国調査の結果を示し、年代ごとにどのように考えられているかを伝える。<br>・人生の多くの時間は労働をして生活を送ることを、例を挙げて説明をする。 | |
| 展開<br>３７<br>分 | ３　働くことと健康の関わりについて考える。<br>【発問１】あなたが、仕事や職場に求めることは何ですか?<br>①仕事や職場に求めることをワークシートに記入する。<br>②①が健康とどう関わるか考える。<br>③グループで共有し、紹介する。<br>４　働き方の変化について学ぶ。<br>５　現代の労働と健康課題を考える。<br>【発問２】現代の健康問題について考えよう。<br>①グループで起こりそうな健康問題とそれに対しての対策を考える。<br>②発表 | ・イメージしやすいように、例を挙げて説明をする。<br>・自分の考えをワークシートにまとめさせる。<br>・円滑な進行のために、グループで司会者と代表者を決めさせる。<br>・クラス全体で共有するために、Google スライドにまとめさせる。<br>・働く上での様々なことが健康に影響することを説明する。<br>・働き方の変化の実例を挙げ、画像を見せながらイメージさせる。<br>・具体的に考えさせるために、３つの例を班ごとに分担させる。<br>・発表のために、グループの意見を集約させる。<br>・発表内容を板書し、健康課題を確認させる。 | （B）<br>ワークシート・スライド |
| まとめ<br>３分 | ６　本時のまとめをする。 | ・本時で導き出した健康課題について、板書を見せながら確認させる。 | |

観点別評価　　A 知識　B 思考力、判断力、表現力等　C 主体的に学習に取り組む態度

協議の視点：「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善ができていたか」

働くことと健康

年　組　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

本時の目標

1, 働くことの意義を考えよう。

①働く目的って何だろう？

②働く意義

2, 働くことと健康の関わりについて考えよう。

① あなたが、仕事や職場に求めることは何ですか？

② ①で書き出したものが健康とどう関係しているか考えてみよう！

③ グループで発表し、まとめよう！

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 求めること | | | | | |
| 健康との関係 | | | | | |

働くことが健康に好ましくない影響を与えることもある

●強いストレス

→精神の健康が脅かされる

●長時間の労働

→病気のリスクが高くなる

●安全配慮が十分でない不適切な作業環境

→けがの恐れがある

3, 働き方と健康問題の変化

多くの産業で機械化・自動化が進み、肉体労働に携わることは少なくなった・

●デスクワークなどの頭脳労働が増加

●多くの職業で感情のコントロールが必要（感情労働）

●交替勤務や夜間勤務の増加

●社外勤務や在宅勤務など，働き方の多様化が進んでいる

グループワーク！

次のことはどのような健康問題を引き起こすか考え、対策を練ろう！

①デスクワークが増え、身体活動量が減少していること

| 起こりそうな健康問題 | 対策 |
| --- | --- |
| | |

②感情労働や人間関係がよくない職場、成果主義などによる精神的重圧や精神疲労

| 起こりそうな健康問題 | 対策 |
| --- | --- |
| | |

③長時間の過重な労働

| 起こりそうな健康問題 | 対策 |
| --- | --- |
| | |

まとめ

①、②、③によって起こる健康問題は現代の労働の健康課題である。

# 「英語コミュニケーションⅠ」学習指導案

実施日時:令和6年10月7日(月)5校時
場　　所:1年3組教室
対　　象:1年3組
教 科 書:Power On Ⅰ(東京書籍)

1 単元名 Lesson 4　Left to Right, Right?

2 単元の目標
今後の日本のマンガの形式について，聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由や根拠とともに聞き手に分かりやすく話して伝えることができる。

3 単元と関連する CAN-DO 形式での学習到達目標
日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて事前に準備をし、英語らしい発音で、速度、声の大きさなどに注意しながら話すことができる。【GRADE 1 話すこと[発表]】

4 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・情報や考えを述べるために必要な語彙や表現等を理解している。<br>・今後の日本のマンガの形式についての考えを理由や根拠とともに話して伝える技能を身に付けている。 | 海外の人に関心をもってもらうために，日本のマンガの形式について，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，情報や自分の考えを理由や根拠とともに話して伝えている。 | 海外の人に関心をもってもらうために，日本のマンガの形式について，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，情報や自分の考えを理由や根拠とともに話して伝えようとしている。 |

5 単元観
本単元は、日本のマンガとその翻訳に関する発表を読むことで、日本と西洋の紙面上の特徴の違いを理解し、翻訳書における問題点について考えていく内容となっている。扱われている言語材料は現在分詞、過去分詞の後置修飾、比較であり、関連する領域別項目は「話すこと[発表]」とする。ペアやグループで伝え合う活動を通して、必要な情報を読み取り、話し手の意図、概要や要点を捉えることで、今後の日本のマンガの形式について深く考える機会とする。

6 生徒観
帯活動で意見や知識を伝え合う言語活動を取り入れていることもあり、簡単な語句や表現を用いて積極的にペアやグループ活動に取り組む生徒が多い。一方で、語彙力が不足しているため伝える内容によっては表現できず、日本語に頼る生徒も見られる。本単元では、発表に向けた支援等を通して、情報や自分の考えを整理し、相手にわかりやすい表現で伝えることに挑戦する力を育成していきたい。

7 単元の指導と評価の計画(総時数:7時間)

| 主な言語活動等(◎本時の内容) | 評価 |
|---|---|
| ・発表を読み、日本と西洋のマンガの形式や翻訳に関する特徴や問題点をペアやグループで共有する。<br>◎ALT が最も困っている日本文化について自分の考えを理由や根拠とともに説明する。<br>・今後の日本のマンガの形式を日本の形式を維持するべきか、西洋に合わせるべきかについて考え、ペアやグループで自分の考えを伝え合い、論理性に注意して表現する。 | ・活動の観察<br>・スピーキングテスト<br>・ライティングテスト |

8　本時の学習（本時 1／7）

（1）　目標

ALT が最も困っている日本文化について、理由とともに説明することができる。

（2）　本時の展開

| 過程 | 学習活動 | 教師の支援及び留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>10分 | ○Warm up<br>「My favorite anime」について、ペアで説明し合う。 | ○自分の好きなアニメについて説明できるように、教師が質問しながら状況を設定し、見本を見せることで話しやすくする。 |
| 展開<br>35分 | ○写真やキーワードを使い、日本と西洋のマンガの形式の違いを考える。<br><br>○台詞を右から書く日本の形式と左から書く西洋の形式を比較する。<br><br>○新出語句を確認し、本文では違いをどのように表現しているかを読み取り、確認する。<br><br>○本時の学習課題を確認する。<br><br>**To explain the most confusing Japanese culture for ALT.**<br><br>○ALTが最も困っている日本文化を3つの中から1つ選び、理由や根拠とともに説明する文をGoogle ドキュメントに記入する。 | ○教科書に掲載されている写真を用いて、違いに気づくよう声掛けをする。<br><br>○生徒2名に実際に台詞を右からと左から書いてもらい、形式の違いをイメージしやすくする。<br><br>○電子黒板で新出語句を提示し、発音と意味を確認させる。<br><br>○ドキュメントへ記入させた回答を電子黒板に投影して、全体に共有させる。<br>○机間巡視をして、記入に困っている場合は助言などで支援する。<br><br>〔評価〕<br>ALT が最も困っている日本文化について理由や根拠とともに、簡単な表現を用いて分かりやすく伝えている。<br>（活動の観察）<br>【思考・判断・表現／主体的に学習に取り組む態度】 |
| まとめ<br>5分 | ○ALT が話す内容を聞き取り、自分が書いた解答を確認する。<br><br>○次時の見通しをもつ。 | ○ALT に3つのうちのどれが正解かを答えてもらい、確認させる。<br>○正解の選択肢以外を選んだ生徒へのフォローも行う。 |

いやー、すべて
わたしの探偵の
タマモノですよ！

タマモノですよ！
わたしの探偵の
いやー、すべて

Oh, it was nothing, just

drawning on all my experience!

just ,nothing was it ,Oh

!experience my all on drawning

第１学年４組　理科（化学基礎）　学習指導案

日　時　令和６年７月１２日（金）　５校時

教科書　化学基礎（実教出版）

**１．単元名**　１章　物質の構成　２節　物質の構成粒子　３　元素の周期表

**２．単元目標**　元素の周期律および原子の電子配置と、周期表の族や周期との関係について理解する。

**３．単元と生徒**

（１）単元観

化学基礎や化学の基本となる周期表の基本的性質を押さえることが必要となる。電子配置や価電子数、元素の分類などの基本的な観点から周期表を理解できるように指導しなければならない。

（２）生徒観

総合学科における５系列の生徒がすべて在籍している。化学が嫌いではないが苦手としている生徒も少なくないが、日頃から明るい雰囲気であり、何事にも真面目に取り組もうとする生徒が多い。話し合いを盛り上げることができるが、やや脱線することがあるため、グループワークは自由度を高めつつ、コントロールしていく必要がある。

（３）指導観

周期表には多くの情報が詰まっており、一見すると複雑なものに感じてしまうことが考えられる。まずは周期表がどのように生まれたかを知り、一つ一つの知識をできるだけ丁寧に理解させていきたい。その際、既習事項の電子配置や価電子数でつまづくことも考えられる。教員側からのフォローだけでなく、生徒間のやりとりで解決できるように工夫したい。

**４．単元の評価規準と計画**

（１）指導計画

①　周期表　　１時間（１時間目／２）

②　元素の分類　　１時間

（２）評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 周期表の配列と電子配置の関係について理解している。 | 周期表について、価電子数と結びつけることができ、性質による分類を理解している。 | 周期表について、積極的に考えようとし、グループでの話し合いに主体的に参加している。 |
| 本時 | | 本時 |

## ５．指導の評価と計画（１時間）

| 時間 | ねらい・学習活動 | 評価規準・評価方法 | |
|---|---|---|---|
| | | 知識・技能 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1 | グループで周期表の特徴を確認し合い、どのような性質があるのかを理解する。 | 電子配置により、現在の周期表が配列されていることを理解する。 | グループでの活動で意見を出し合い、それをまとめることができる。 |

## ６．本時の計画

（１）本時の目標　周期表の基本的な特徴を理解する。

（２）　展開

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の観点 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>(5分) | スライドで、原子番号１～２０番の元素を復習する。 | 今後も使用するものなので覚えておくように指導する。 | |
| 展開<br>(40分) | 現代の周期表と昔の周期表を比較し、共通点や相違点等の特徴を見つけ、グループやクラスで意見を出し合う。 | 最初は個人で作業し、その後、グループで意見を共有する。 | グループでの活動で意見を出し合い、それをまとめることができる。(主体的に学習に取り組む態度) |
| | メンデレーエフが周期表を考案した経緯を確認し、「周期律」について説明する。その際、イオン化エネルギーや原子半径などが周期的に変化することを確認する。 | 周期表に関わる語彙を整理しながら解説する。（「族」「周期」「同族元素」など） | |
| | 各元素の電子配置を確認しつつ、元素の性質の周期性が「価電子数」によるものであると学習する。 | 貴ガスの最外殻電子数と価電子数は異なることに注意する。 | 電子配置により、現在の周期表が配列されていることを理解する。（知識・技能） |
| まとめ<br>(5分) | プリントで本時のまとめを行い、振り返りパートも記入する。 | | |

## ７．協議の視点

言語活動の導入方法やその質や量について適切であるかどうかや、授業内におけるその効果について考える。

# 理科「化学基礎」学習指導案

日　時：7月4日（木）6校時
クラス：１年１組
場　所：１年１組

教科書：実教出版　化学基礎

１　単元名　２章１節　イオン結合　１イオン結合とイオン結晶

２　単元の目標　物質と化学結合についての観察、実験などを通して、イオンとイオン結合について理解させ，それらの観察，実験などの技能を身に付けさせるとともに，思考力，判断力，表現力等を育成する

３　単元と生徒

（１）　教材観

化学基礎において最初に扱う化学結合であり、括弧や添え字などの規則を正確に身につけなければ組成式で表すことはできない。また、イオン結合はこの単元以降も使用するので化学基礎においては重要な単元の一つと言える。

（２）　生徒観

勉強は苦手であるが、苦手なりに取り組もうとする生徒が多い集団である。わかる、できる、楽しいと思うと全体が明るい雰囲気になるクラスなので授業の成否がわかりやすい。

（３）　指導観

組成式を書くに当たり、イオン式から価数や符号を消したり、元素記号の右下に添え字をしたりと生徒には慣れない作業が多い。身につけるためには練習を繰り返すことが必要であると感じる。問題演習に取り組むことも考えられるが、知識が身に付いていない生徒は手が止まってしまうので、生徒が協力しながら試行錯誤をするよう練習をさせたい。

４　指導と評価の計画

（１）　指導計画（総時数　２　時間）

①　イオン結合とイオン結晶（１時間）…本時１／１

②　イオン結合からなる物質（１時間）

（２）　評価基準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| イオン結合がイオン間の静電気的な引力による結合であることを理解している。 | イオン結合を組成式で書き表すことができる。<br>水溶液中や溶融した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。 | イオン結合でできた物質の性質について進んで理解しようとする。 |

５　本時の計画

（１）目標　イオンからなる物質を化学式で書き表し、名称を答えることができるようになる。

（２）展開

| | 生徒の学習活動 | 教師の指導・留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>5<br>分 | イオン結合について知識を得る。<br>【一斉・スライド】 | 電子黒板が見えにくい生徒へ画面共有でスライドを個人端末へ投影する。 |
| 展開<br>35<br>分 | 組成式のつくり方と読み方について知識を得る。<br>【一斉・スライド】 | 多原子イオンの場合で説明する。単原子イオンの場合の例を黒板へ板書する。 |
| | 主発問：様々なイオンの組合せから組成式をつくり、つくり方を身につけよう。 | |
| | クラスメイトの持つイオンカードと自分のイオンカードからできる物質の組成式を協力して考えてつくり、ワークシートに記入する。<br>　陽イオンと陰イオンを交換し２回目を行う。<br>【個別・ワークシート】 | 組成式のつくり方は電子黒板へ映しておく。<br><br>机間指導をしながら、個別質問への回答や誤答の修正、助言を行う。 |
| 整理<br>10<br>分 | 教科書の問２に取り組む。<br><br>問２の答え合わせをする。 | 机間指導で、手順を一つずつ確認させながら取り組ませる。 |

評価　【思考・判断・表現】

Ｂ：イオンからなる物質を組成式で書き表し、名称を答えることが概ねできている。

（ワークシート）

単元の目標と本時のつながり

イオン結合を組成式で表すための必要な手順と規則を知り、イオンでできた物質を化学式で表すことを身につける。

協議の視点

知識（手順や規則）を覚えることではなく、知識をもとに組成式を作成して、その名称を述べることを目標としている。知識の補完のため、クラスメイトと協同作業を取り入れ計画をしたが、共同作業が手段としてこの場合に適していたか。

# 特　定　課　題　研　究　レ　ポ　ー　ト

| 所　属　校 | 西目高等学校 | 職・氏名 | |
|---|---|---|---|
| 研 究 内 容 | Ａ：本県の教育課題に関する研究<br>Ｃ：生徒指導に関する研究<br>Ｅ：道徳教育に関する研究<br>Ｇ：総合的な学習の時間に関する研究<br>Ⓘ：その他 | Ｂ：マネジメントに関する研究<br>Ｄ：教科指導に関する研究<br>Ｆ：特別活動に関する研究<br>Ｈ：特別支援教育に関する研究<br>（選択したものに○を付けること） | |
| 研究テーマ | 児童生徒の国際的な感覚を養うための行事の計画とその運営 | | |

１　研究の概要

秋田県は全国的に見て、外国人居住者の数はかなり少ない。これは就労場所や環境、各種学校などの様々な要因が関係しているが、近年、就労や進学のため、またその帯同のための居住が著しく増加している。そのため、行政の受け入れ体制が完全には整っておらず、外国人は多くの不便さや生きづらさを抱えている。しかし、それらに対する取り組みは徐々に進んでおり、秋田県国際交流協会のような団体や各種施設が様々なサポートを提供している。

私が注目したのは外国人の生きづらさは、日本国民の海外への知識や理解不足、また異文化との未接触などにより生じる文化的な側面も持ち合わせているということである。そこで私は、児童生徒に国際的な感覚を身につけさせることを目的とした校内行事の計画と運営を検討した。国際的な異文化に肯定的視野を持って接することができる人材は、今後の秋田県にとっては必要不可欠であると考え、この研究が秋田県の発展に寄与できると考えている。

今回は、私自身が勤務していたマラヤ大学予備教育センター日本留学特別コース（マレーシア）の元学生で、秋田大学理工学部に留学している６名の留学生に協力をしてもらった。大学の夏季休業期間である９月に皆さんを招く国際交流会を計画した。事前にマレーシア人留学生の方々にはアンケート調査を行い、どのようなセッションを設けることで会を活性化するかということについて検討を行った。

本校生徒（１年生）には事前学習にて、マレーシアの文化や慣習を簡単に伝え、注意事項の確認を行った。（例えば、マレーシアはイスラム教国であり、「男性は女性に握手を求めてはいけない」や「人の頭には触れない」などの様々な注意点がある。また、これはマレー系マレーシア人に限ったことで、中国系やインド系にはまた異なる独特な文化が存在している。）アンケートを生徒に実施し、知りたいことや聞きたいことなどを確認した。

当日は全体セッションを行い、続いてクラスセッションに移行した。全体セッションは学年全体で行い、留学生の紹介とマレーシアの紹介をした。マレーシアの紹介では地理、気候、文化など、様々な内容を私の経験も含めて説明を行った。

クラスセッションでは、西目高校の説明や秋田県の紹介などをグループごとに行い、質疑応答を行った。その後、マレーシアについての質疑応答を行い、フリートークセッションを行った。

留学生には最後、農場見学（サツマイモ掘り体験）や書道体験を行ってもらった。最終的に事後アンケートをとった。

２　成果と課題

生徒にとって、異文化と触れる機会はまだ少なく、今回は「マレーシア」に絞り、文化だけでなく、地誌や言語などについても触れることができた。これらは生徒の国際感覚を養うだけでなく、国際理解や異文化コミュニケーションについて学ぶことができることにつながったように感じている。全体セッションとクラスセッションについて、それぞれ以下に示したい。

全体セッションが 0.5 時間、クラスセッションが 1.5 時間の配分で計画を行った。全体セッションでは主に「留学生の紹介」や「マレーシアはどのような国なのか」を行った。生徒に行った事前アンケートによると、マレーシアについて国名しか知らないような生徒が多く、日本での認知度はかなり低いのかもしれない。このことから、まずは民族や文化、言語、気候などの基本的な情報を紹介した。生徒の多くは食べ物や文化、言語について興味を持っているため、そのような内容も多く盛り込もうと考えたが、新しい情報が過多になる恐れがあったため、より詳しい情報は留学生にクラスセッションで話してもらうように計画した。全体セッションでは、基本的な情報を入れ、生徒の興味関心をひきつけるのは良かったものの、時間が限られており、もう少し内容を精選する必要があると感じられた。また、全体セッションの場は「出会いの場」であり、講話形式だけでなく、生徒と留学生が交流ができる取り組みがあれば、なお良かったように感じている。実際にマレーシアで行った外部交流会（マレーシア人学生と日本人高校生の交流会）では、両者に事前に予習させて行っていたこともあり、教育効果を高めるためには事前の準備（教員だけでなく、生徒の準備も含めて）を入念に行う必要があると考えられた。

クラスセッションでは、各クラスに留学生が 1～2 名ずつ行き、生徒の学校紹介や日本紹介のプレゼン

テーションを行った。4～5 グループがそれぞれ発表し、その後、質疑応答を行った。発表が終わった後、留学生がもう一度自己紹介やマレーシアの紹介を行った。その後のフリートークタイムでは、マレーシアでの生活と秋田での生活の違いについてや今流行しているもの等、様々なテーマでコミュニケーションすることができていたように感じた。留学生の事後アンケートからも、フリートークの時間が充実していたとの感想をもらっている。また、留学生自身が様々な計画をして、日本の高校生に紹介したいとの感想もあったため、留学生の自主性に任せて交流会をアレンジメントしてもよいと思われる。逆に生徒の発表セッションでは、似た内容の発表があったり、すでに留学生が知っている内容もあり、工夫が必要であると感じられた。例えば、総合的な探究の時間とタイアップして、探究している内容を留学生に伝えるような取り組みがあってもよいかもしれない。別の視点からのアドバイスも期待されるので、教育的な効果があると思われる。また、発表については用紙を見てそれをただ読んでいたり、読みの抑揚が平坦であったり（外国人にとってはイントネーションや東京式アクセントがはっきりしないと聞き取りづらいことがある）して、練習が不足しているように感じた。これは普段のコミュニケーションにもつながる側面があり、このような力を養っていかねばならないと感じている。

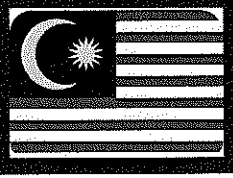
今回の交流会の目的は「児童生徒の国際的な感覚を養う」ということであった。これは国際理解分野では初歩的な内容であるため、高校生を対象にするならばもう少し高い目的や目標を設定すべきだと感じている。そのため、この行事では文化や言語、宗教等、フィールドを絞っていなかったが、今後はより深い内容でコミュニケーションできるようにしていきたいと考えている。また、今回は一方向な発表、聴講のような場面が多かったが、ゲームやディスカッションのような活動も取り入れていきたいと思っている。外国人が身近に感じたという感想もあり、国際理解に関する素地が少しずつ構築されていったように感じた。

イベントをしていく上で欠かせないのが留学生たちの協力である。今回は大学生の夏季休業期間である 9 月に実施したが、地元に帰省している学生も多く、人数が思ったほど集まらなかったということがあった。今回は年度が始まったあとにスケジュールを設定したが、今後は実施する日程をはやめに設定し伝えておくということが必要であると感じている。また、私が社会教育研修で訪れた秋田県国際交流協会と協力してイベントを行うということも検討していきたい。ベトナムや中国の留学生も増加傾向にあり、他国（マレーシア以外）の人々との交流も期待できると感じている。留学生にこだわらず、様々な方法を模索していきたい。

# マレーシア留学生との国際交流会
# （秋田県立西目高等学校）

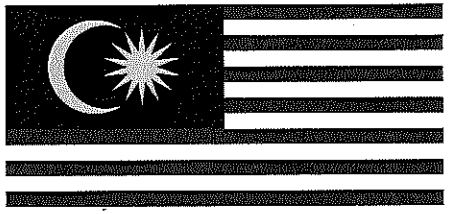
17/09/2024

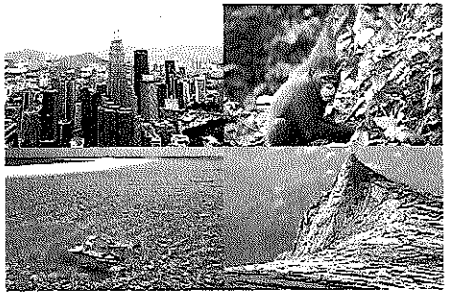
Selamat datang ke Nishime high school!



▶ **スケジュール**

1. 予定説明
2. 留学生の皆さんの紹介
3. マレーシア紹介
   ～各クラスへ移動～
4. 学校紹介・交流　等
5. 質疑応答





## 2. 留学生の皆さんの紹介

UNIVERSITI MALAYA

## マレーシア政府派遣留学生

高校（2年）

**SPM（進学のためのテスト）**

予備教育（1年）　予備教育（2年）

UNIVERSITI MALAYA

大学（3年）

**EJU（日本留学試験）**
**【日本語・数学・物理・化学】**

国立大学（4年・日本）

---

問 10　ある一定温度のもと，10 L の容器に 1.0 mol の四酸化二窒素 $N_2O_4$ を入れたところ，圧力は $1.0\times10^5$ Pa であった。温度を保ったまま放置すると二酸化窒素 $NO_2$ が生成し，次式の平衡状態（equilibrium state）に達し，全圧（total pressure）は $1.1\times10^5$ Pa となった。

**化学**

$$N_2O_4 \rightleftharpoons 2NO_2$$

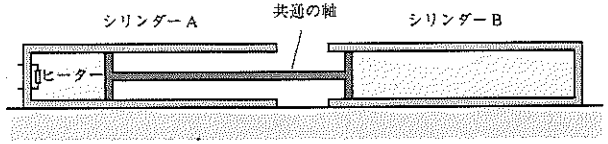
この温度における濃度平衡定数（concentration equilibrium constant）として最も近い値を，次の①～⑥の中から一つ選びなさい。ただし，容器内の物質はすべて理想気体とする。　**10** mol/L

① 0.0011　② 0.0022　③ 0.0044　④ 0.011　⑤ 0.022　⑥ 0.044

---

**B**　次の図のように，2つの同じシリンダーAとBが，互いに向かい合った状態で，水平な床に固定されている。なめらかに動く，断面積の等しい2つのピストンが共通の軸でつながれている。これらの2つのピストンによって，A内には0.20 mol，B内には0.60 mol の理想気体が閉じ込められている。A内の気体はヒーターで加熱することができる。初め，A，B内の気体は同じ温度，同じ圧力であった。ヒーターでA内の気体を一定時間加熱したところ，A内の気体の体積が初めの1.5倍になった。この時のA内の気体の温度を $T_A$，B内の気体の温度を $T_B$ とする。シリンダーとピストンは断熱材でできており，その熱容量は無視できるものとする。

**物理**




---

問 2　平面上に三角形 ABC があって，1 個の球が頂点 A に置かれている。いま，1 個のサイコロを投げ，次の規則にしたがって球を動かす。

(i)　球が A にあるとき，出た目が 1 であれば B に動かし，その他の場合は A から動かさない。

(ii)　球が B にあるとき，出た目が 4 以下であれば C に動かし，その他の場合は B から動かさない。

ただし，球が C に到達すれば試行を止める。

このとき，サイコロを投げて，4 回以内に球が C に到達する確率を求めよう。

**数学**

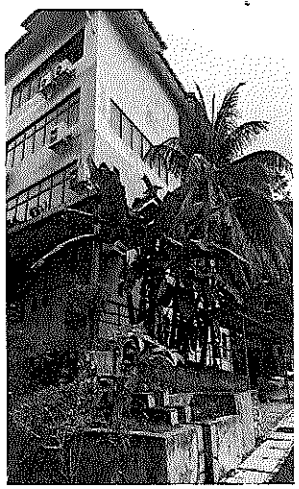
IX　次の文章で，筆者は，茶畑にある扇風機はどのような働きをしていると述べていますか。

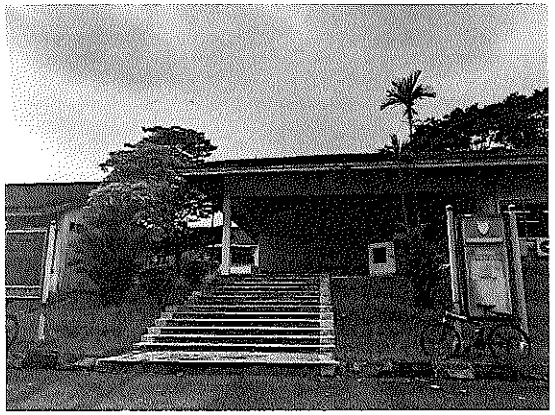
## 日本語

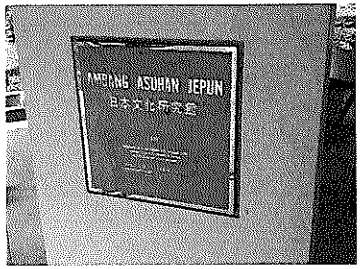
ときどき，「新幹線で静岡付近を走っている時，お茶畑に小さな風車がたくさんついているのを見かけますが，あれは発電のためですか」という質問を受ける。実は，あれは風車ではなく大型の扇風機（防霜ファン）なのである。つまり，地表付近の比較的層の薄い冷たい空気層の上に逆転層と呼ばれる暖かい空気の層があるので，この暖かい空気を防霜ファンで地上に吹き下ろし，霜を防ぐのである。

一般に，ファンの高さは地上６ｍ程度以上である。特に効果的なのは，傾斜地の斜面の上空から下方に向けて吹き下ろす場合である。防霜は，１度ないし２度程度のわずかな温度差でも効果は非常に大きく，特に茶の摘み取りの直前の霜が降りるか否かの微妙な時期には防霜ファンの効果は決定的である。

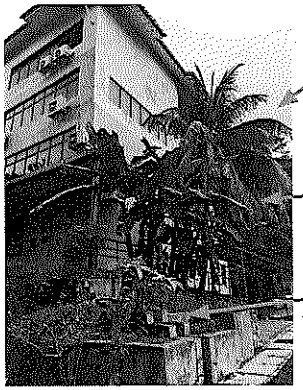
（牛山泉『さわやかエネルギー風車入門』三省堂）








教育施設である「**予備教育センター日本留学特別コース**」の入口です。
通称、マレー語では、**AAJ(Ambang Asuhan Jepun)**といいます。
英語では「Gateway to Japan」です。（日本への「入り口」）

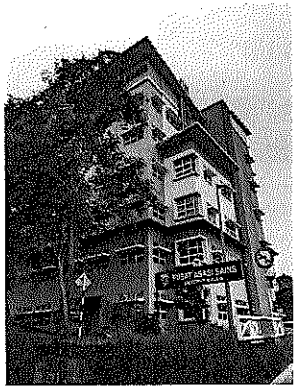


ココナッツの木
※真下は危険

バナナの木
※収穫される。

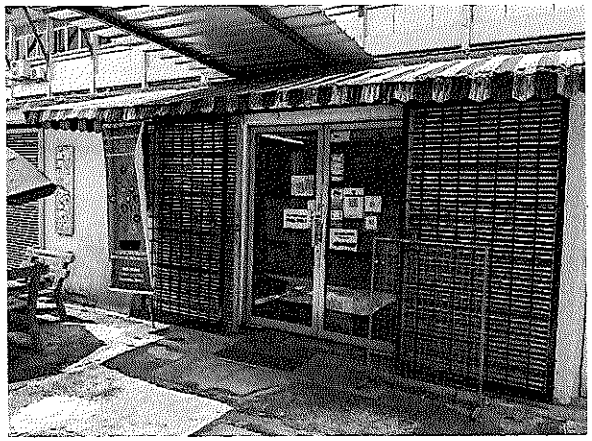
マンゴーの木
※実らない。

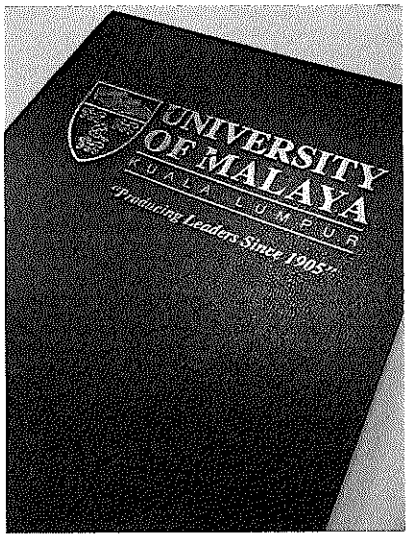
職員室・2年教室棟



PASUM棟

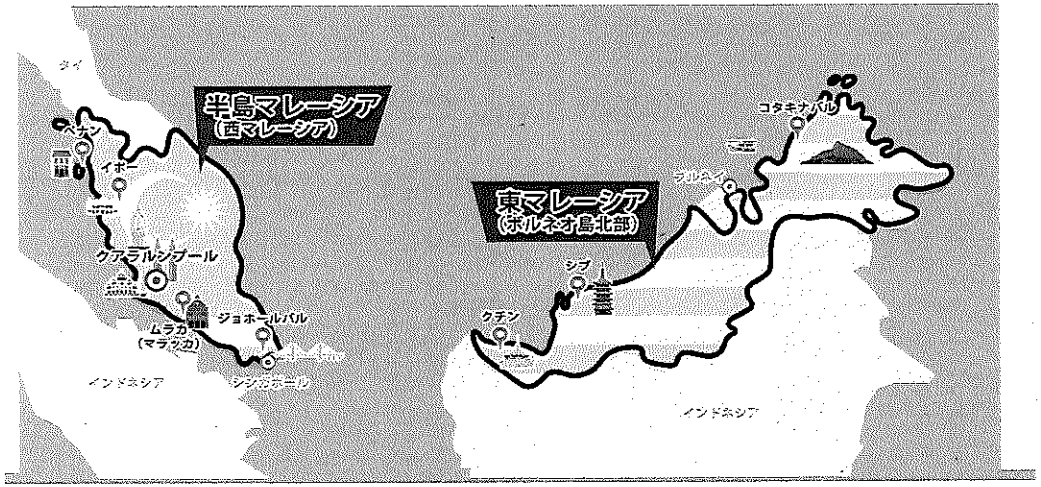
PASUMとは、「**Pusat Asasi Sains Universiti Malaya**」の略称です。
大学入学前の予備教育をする機関であり、AAJ以外の学生も所属しています。





3年前、コースを修了したクラスの学生です。
私はクラス担任として、式典で呼名しました。
学生は現在、大学3年生となっています。

## 3. マレーシア紹介




## 【基本情報】

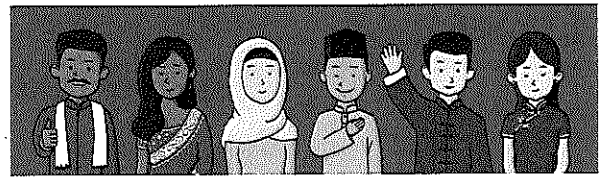
1)気　候･･･年間平均気温は27℃(毎月ほぼ同じ), 雨季と乾季あり

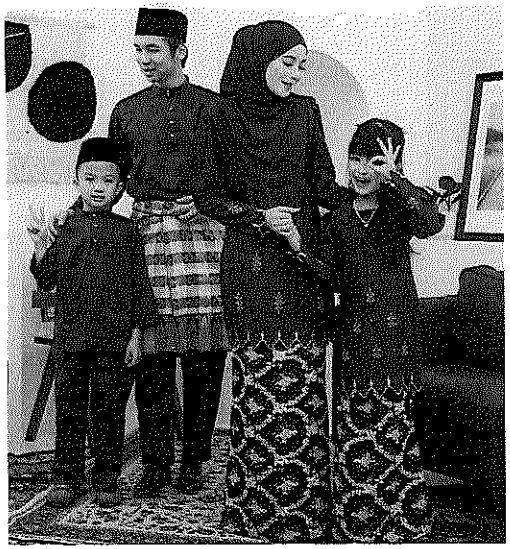
2)言　語･･･マレー語(公用語), 英語, 中国語, タミル語など

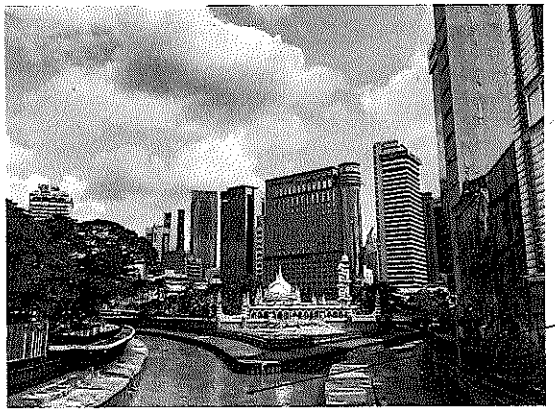
3)民　族･･･多民族国家(マレー系7割, 中国系2割, インド系1割, 他)

4)宗　教･･･イスラム教(国教), 仏教, ヒンドゥー教, キリスト教, 他

5)その他･･･日本の漫画やアニメが人気, ナシレマがおいしい

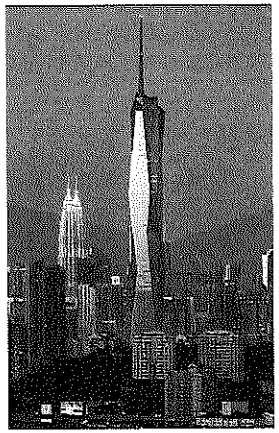




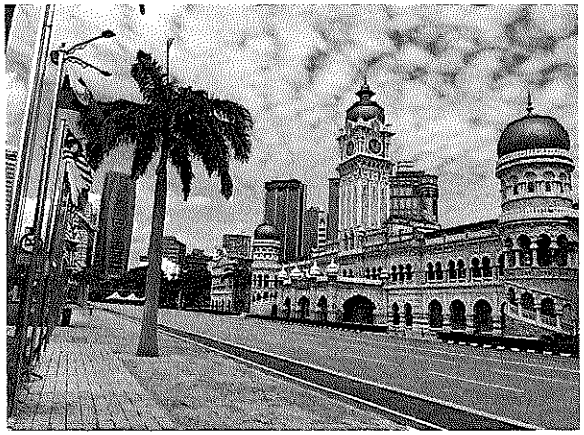


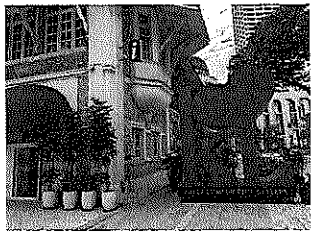
**Kuala Lumpur** (由来：合流地点・泥)
クラン川(右)とゴンバック川(左)の合流地点

200年近く前までは市内付近はまだ深いジャングルの中だったそうです。
錫鉱山の発見とともに中国人が入植し、この川の合流地点付近から発展しました。
現在でも「Royal Selangor」という錫製品の大きな会社があります。

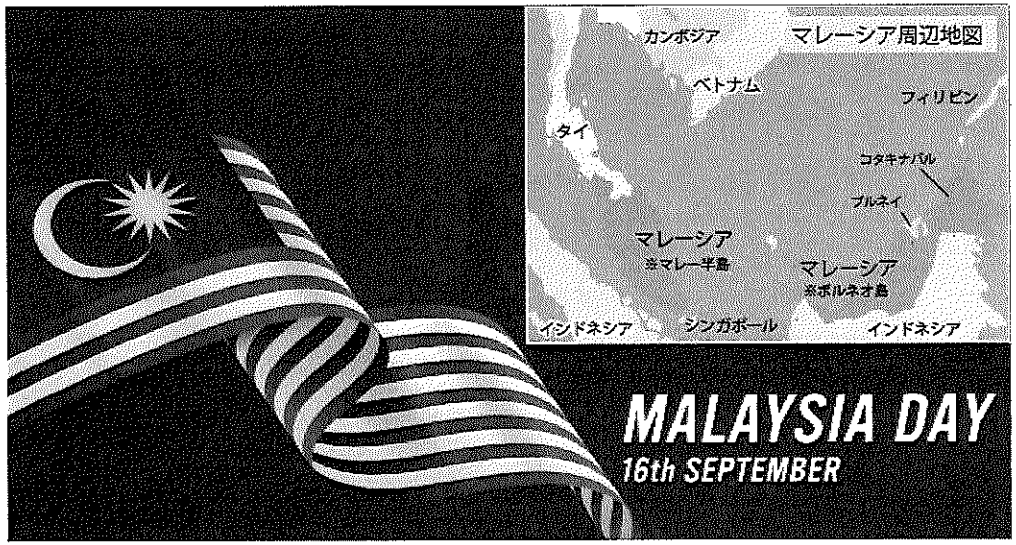


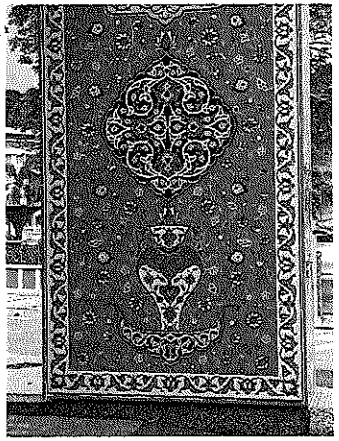
観光名所のペトロナスツインタワー(452m, 1998年完成,当時世界最高層ビル)です。
日本(tower1)、韓国(tower2)、フランス(連絡橋)の建設会社が施工し、完成しました。
右はムルデカ118(678m) です。現在、ブルジュ・ハリファに次いで世界2位です。



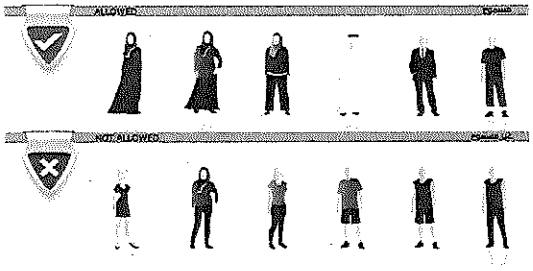


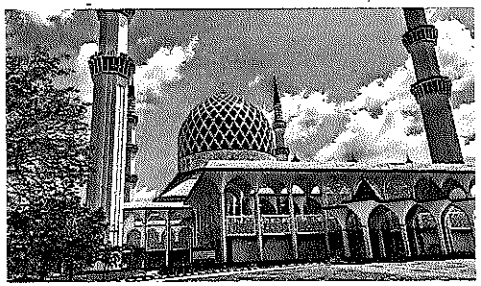
ムルデカスクエア(独立広場)周辺です。ここで1957年にイギリスから独立しました。
当時は「マラヤ連邦」と呼ばれ、シンガポールもまだ独立はしていませんでした。
この周辺にはイギリス統治時代を思わせる建築物が多くあります。





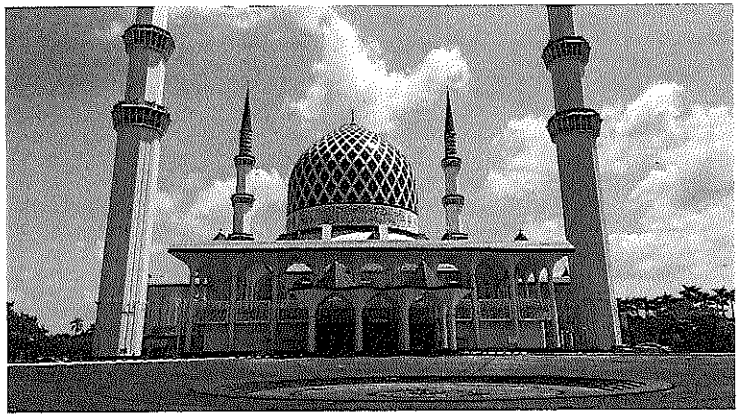
イスラム美術博物館です。マレーシア国内外のイスラム関係の美術品が展示されています。
イスラム教では偶像崇拝が禁止されているため、人物画等の美術品は少ないそうです。
その代わり、古くから幾何学模様のタイルや建築等の美しいデザインが発展しました。

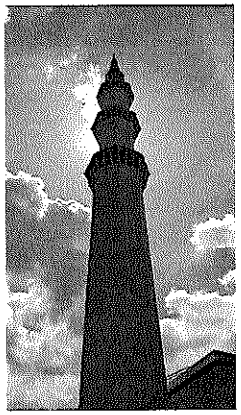


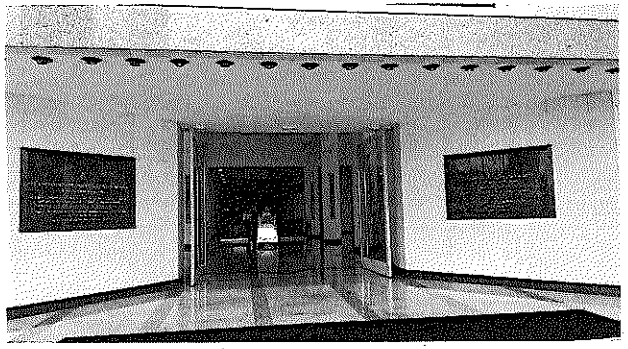
モスク内でのドレスコード（Anniversary Travelより）

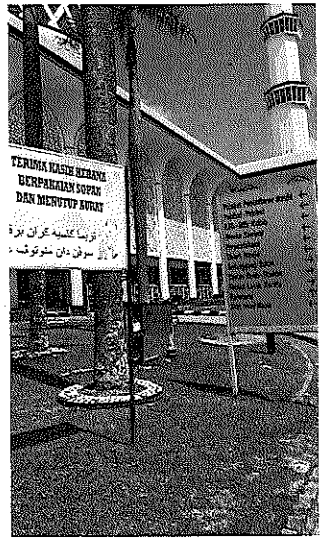
モスク(mosque)は、アラビア語でマスジット(masjid)とも呼ばれる礼拝堂のことです。
イスラム教国だけでなく、日本やヨーロッパ等、世界中にモスクが置かれており、
ムスリムが礼拝する際に集まる施設となります。（特に金曜日は特別な礼拝日です。）
大きなモスクは異教徒も見学することができますが、一部入れない場所もあります。
特にドレスコードは厳しく指定されており、ハーフパンツやミニスカート等、
肌露出の多いもの、レギンスやタイツ等の体の線が出るものも不可となっています。



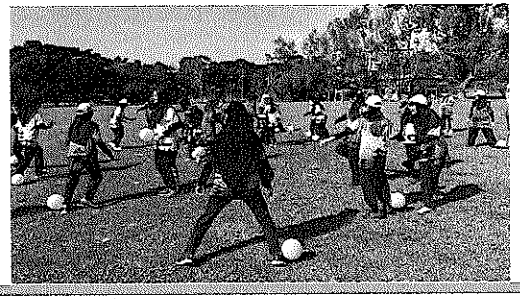


このブルーモスクは正式にはSulutan Salahuddin Abdul Aziz Mosqueといいます。
最大収容人数は24000人、青のドームと4本のミナレット（尖塔）が特徴的です。
ミナレットからは礼拝を呼びかけるアザーンが毎日流れます。






このモスクには礼拝堂以外の役割があります。
図書館や式場、教室等、様々な施設が付随しており、
ムスリム同士の交流の場にもなっています。
敷地面積はハーブワールドの約7倍程です（14万$m^2$）。



# 特　定　課　題　研　究　レ　ポ　ー　ト

| 所　属　校 | 秋田県立西目高等学校 | 職・氏名 | |
|---|---|---|---|
| 研 究 内 容 | Ａ：本県の教育課題に関する研究<br>Ｃ：生徒指導に関する研究<br>Ｅ：道徳教育に関する研究<br>Ｇ：総合的な学習の時間に関する研究<br>Ｉ：その他 | Ｂ：マネジメントに関する研究<br>ⓓ：教科指導に関する研究<br>Ｆ：特別活動に関する研究<br>Ｈ：特別支援教育に関する研究<br>（選択したものに〇を付けること） | |
| 研究テーマ | 「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実のための授業の実践 | | |

１　研究の概要

目的　「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実のための授業計画・展開の実施

文部科学省によると、[注1)]「個別最適な学び」については「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することの重要性が言われている。「指導の個別化」は一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法等で学習を進めることであり、その中で児童生徒自身が自らの特徴やどのように学習を進めることが効果的であるかを学んでいくこととされている。「学習の個性化」は個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げることを意味し、その中で児童生徒自身が自らどのような方向性で学習を進めていったら良いかを考えていくことである。これを教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」である。学習指導要領の総則では「児童（生徒）の発達の支援」の項目において、「個に応じた指導」の充実を図ることについて示している。「個に応じた指導」に当たっては、「指導の個別化」と「学習の個性化」という二つの側面を踏まえるとともに、ICT の活用も含め、児童生徒が主体的に学習を進められるよう、それぞれの児童生徒が自分にふさわしい学習方法を模索するような態度を育てることとしている。

このような背景を踏まえ、これまでは一律での指導が中心であったため、授業改善のために授業の計画と展開を研究した。

方法　数時間の授業を１つのまとまりとして捉え、[注2)]学習ガイド（資料１）を用いて、単元の学習の流れとして生徒の参考となるような展開を提示する。また、評価基準（資料２）と対応する教科書やワークの内容を記載し学習の参考とさせる。また、計画表を用意し、毎時間の計画とふり返りから学習の調整を意識させる。そして、到達度を測るため単元の途中と最後にチェックテストを実施する。対象授業内の座席などは自由とし、自らがやりやすい形での学習を認める。

２　成果と課題

授業後に行ったアンケートによる生徒の感想を要約すると以下のようになった。

・成果として

自分のペースで学べる
友達や先生に質問しやすい
集中して学べる
自分の苦手なところに焦点を当てられる
協力し合うことの重要性
時間をかけてじっくり学べる

など、個別学習や協力学習が自分の理解を深める手助けになったという感想が多く、自己のペースで進めることを多くの生徒が有用と感じている。また、学習が楽しいと感じた生徒が多数であった。

・課題として
　教え合いと協力が難しい
　目標設定と計画の重要性
　集中できる環境作り
　個別対応のメリットと改善点
　自分で進めなければいけない
　無駄を減らす工夫
　復習と自己学習
　一斉授業の方がわかりやすい

　など、教え合いや協力、目標設定と集中した環境作りが学習をより効果的にするためのポイントとして挙げられた。１人で黙々と進める生徒もいれば、人に頼りっきりの生徒もいた。学習ガイドや評価基準を用意しているが、一定数の生徒は、「何をやればいいかわからない」という状態になっていた。そのような生徒がいることも現状なので、改善と丁寧な対応が必要である。

また、授業後の教員協議会では
　１人で集中してやる生徒や、友達と相談している生徒、易しい問題にしっかり取り組む生徒、難易度の高い問題に挑戦する生徒など「個別最適な学び」が進められていた。
　「協働的な学び」という視点でも、目標に向け生徒同士お互いに関わりながら課題を解決しようとする姿勢が見られた。
　グルーピングは教師がした方が良いのではないか
　ティームティーチングとすれば指導に幅が生まれる、教師１人と生徒２５人では目が届かない部分がある
　などの意見が得られた。

　以上から、個々人の学習状況や成果を重視するのであれば、「指導の個別化」「学習の個性化」は生徒児童の資質・能力を育成すること、興味関心を生かした探究的な学習等をすることに非常に効果的である。一方で、学習の内容に差が生じることになる。一律でないことに否定的な考えもあると思うが、目標の設定の仕方で、履修の担保と学力の保障をしていかなければならない。
　授業の計画と準備は非常に手間がかかり個人で行う範囲には限度がある。しかし、一度生徒像に合わせて展開を構築してしまえば、その学校の指導方法として、その後使っていくことが出来る。また、一斉授業とは生徒の動きが大きく異なるため、一部の授業だけで行うと周囲の反発を招くこともあると思う。これには、学校全体での共通認識が大切であろう。いずれ、「主体的・対話的で深い学び」のためには教科や学校全体での体制での取組が必要である。
　生徒の主体性を伸ばす上で、教師の役割はティーチャーでありファシリテーターでもあると思う。知識を教えるだけでなく、生徒が自ら学習の進め方を改善していくことができるよう指導・支援していくことが、指導において私たちに求められる。「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を図ること、学習指導要領の着実な実施に努めたい。

参考文献
注１）文部科学省.「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実.2024 年 9 月
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_01317.html
注２）加藤幸次. アクティブ・ラーニングの考え方・進め方. 黎明出版. 2016 年 5 月
・　加藤幸次. 個別最適な学び・協働的な学びの考え方・進め方. 黎明出版. 2022 年 3 月

化学基礎＿物質量＿評価規準　　資料2

ワークp42～49、56～57
教科書p84～95

| | | | S<br>発展的な内容 | A<br>標準的な内容 | B<br>苦手な人もこれだけはできるように | C |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **3章1節1項 原子量と分子量・式量** | | | | | | |
| 原子の相対質量 | 知識・技能 | 到達度 | | 12C＝12と基準を定め，これをもとに比例式から他の原子の相対質量を計算で求めることができる。 | 原子の相対質量について，12C＝12としてこれを基準としたときの原子の質量の比であることをある程度理解している。 | 相対質量について理解できていない。 |
| | | 該当する問題 | | B、S以外 | ワーク<br>p42 基礎チェック①②<br>p42 90 | |
| 原子量 | 知識・技能 | 到達度 | | 原子量について，相対質量と存在比から求めることができることを知っている。具体的な計算をある程度行うことができる。 | 原子量について，相対質量と異なる値になることを知っている。 | 原子量と相対質量の関係について理解できていない。原子量の計算に誤りを多く含む。 |
| | | 該当する問題 | | B、S以外 | ワーク<br>p42 基礎チェック③④<br>p43 91 | |
| 分子量・式量 | 知識・技能 | 到達度 | | 分子量や式量について理解し，正確に大きな数値のものやイオン式から計算することができる。 | 分子量や式量について，分子や組成式からは計算することができる。 | 分子量・式量の計算ができていない。 |
| | | 該当する問題 | | B、S以外 | ワーク<br>p42 基礎チェック⑤⑥<br>p43 93，94<br><br>教科書<br>p87 問3 | |
| 学びに向かう態度 | 主体的に学習に取り組む態度 | 到達度 | | 原子・分子の世界で，質量をどのように表現するか探究しようとし，原子の相対質量や原子量の求め方について自分なりにまとめている。 | 原子の相対質量や原子量・分子量・式量を求める方法はある程度知っていて，自分で計算しようとしている。 | 原子の相対質量や原子量・分子量・式量について，関心を示さない。 |
| | | | | | | |

| | | | S<br>発展的な内容 | A<br>標準的な内容 | B<br>苦手な人もこれだけはできるように | C |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **3章1節1項 原子量と分子量・式量** | | | | | | |
| 物質量とアボガドロ定数 | 知識・技能 | 到達度 | | 物質量とアボガドロ定数の定義，および粒子数と物質量の関係について理解し，ある程度計算することができる。 | 物質量とアボガドロ定数の定義についてある程度理解している。また，1 molの定義を知っている。 | 物質量と粒子の数の関連について理解できていない。 |
| | | 該当する問題 | ワーク<br>99 | B、S以外 | ワーク<br>p45 基礎チェック①②<br>p46 96<br>教科書<br>p88 問4 | |
| 物質量と質量 | 思考・判断・表現 | 到達度 | | モル質量を通じて，質量と物質量について考え，互いに計算することがある程度できる。 | モル質量の定義を理解している。 | 物質量と質量の関係についてあまり理解できておらず，どのように計算するかわからない。あるいは，計算できても誤りを多く含む。 |
| | | 該当する問題 | | B、S以外 | ワーク<br>p45 基礎チェック③<br>p46 95，98<br>教科書<br>p90 問5 | |
| 物質量と気体の体積 | 物質量と気体の体積 | 到達度 | | 気体の体積と物質量について考え，互いにある程度計算することができる。 | 具体的な気体の体積（22.4 L）と物質量（1 mol）を身に着けている。 | 物質量と気体の体積の関係についてあまり理解できておらず，どのように計算するかわからない。あるいは，計算できても誤りを多く含む。 |
| | | 該当する問題 | ワーク<br>101<br>102 | B、S以外 | ワーク<br>p45 基礎チェック④⑤⑥<br>p48 100<br>教科書<br>p91 問6 | |
| 物質量と粒子の数，質量，気体の体積の関係 | 思考・判断・表現 | 到達度 | | 物質量と粒子の数，質量，気体の体積についての関係について十分に理解しており，それらの中から適切なものを組み合わせて考え，計算することができる。 | 物質量と粒子の数，質量，気体の体積についての関係についてある程度理解しており，それらの中から適切なものを組み合わせて考え，ある程度計算することができる。 | 物質量と粒子の数，質量，気体の体積についての関係について理解できていない。 |
| | | 該当する問題 | | B、S以外 | ワーク<br>p49 103<br>教科書<br>p92 類3 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 到達度 | | 物質量と粒子の数，質量，気体の体積についての関係を探究しようとし，それらの相互関係から，求め方について理解し他の人に説明できている。 | 物質量と粒子の数，質量，気体の体積を互いに求める方法はある程度知っていて，自分で計算しようとすることができる。 | 物質量の考え方や粒子数，質量，気体の体積との関係について，関心を示さない。 |
| | | | | | | |

資料1

学習ガイド（3章1節　2物質量　教科書p84～95、ワークp42～49・p56～57　）

<table>
<tr><td>学習の目的<br>○物質量を知る<br>○物質量と質量・体積の関係に習熟する<br>○問題解決に活用する</td><td colspan="4">物質量に関することと、その計算方法を理解し、実際の問題を解決できるようにする。</td></tr>
<tr><td>学習の進め方<br>学習内容の確認<br>↓<br>学習計画の作成<br>↓<br>学習・自己評価<br>↓<br>チェックテスト<br>↓　↓<br>復習　→　発展</td><td colspan="4">○この単元では、学習内容を確認した後、自分で計画した方法で学習をすすめる。<br>○毎時間、学習内容を振り返りに記入し、計画変更も自由である。<br>○学習の進め方も、次のように自由である。<br>・教科書中心に進める。<br>・ワークを使いながら学習する。<br>・プリントを元に学習を進める<br>○個人・グループで集まるなど、教室内を自由に利用してよい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">学習計画を立てるために</td></tr>
<tr><td>1<br>2</td><td colspan="4">物質量の意味を理解し、質量や気体の体積との関係から簡単な計算をすることができる（一斉学習）<br>チェックテスト後、個別学習の計画</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3<br>4<br>5</td><td>標準的な学習進度</td><td>ゆっくり学習したい人の進度</td><td colspan="2">アドバンスな学習向け進度</td></tr>
<tr><td>いろいろな物質量の問題の解き方を考え、物質量と質量や気体の体積との変換の練習に習熟する。</td><td>物質量の定義を身につけ、1molが表す量を身につける。</td><td colspan="2">物質量を分子量や密度などと関連付け計算で求める練習をする。</td></tr>
<tr><td colspan="4">チェックテスト後、次回からの学習計画を立てる</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6<br>7<br>8</td><td>質量や気体の体積を物質量を交えて、自在に変換できるよう習熟する。</td><td>いろいろな物質量の問題の解き方を考え、1対1の変換の練習に習熟する。</td><td colspan="2">物質量に関わる量を自在に計算できる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">チェックテスト後、これまでの学習の自己評価をする。</td></tr>
<tr><td colspan="5">・教科書の問題はいつでも答え合わせします。<br>・教科書とワークは関連付けて学習すること。<br>・人に教えることも自分の学習に結びつきます。友達に説明することで、自分の知識もより確かな物になります。</td></tr>
</table>

# 選　択　研　修　報　告　書

| 所　属　校 | 秋田県立西目高等学校 | 職・氏名 | |
|---|---|---|---|
| 研　修　先 | 秋田県国際交流協会（AIA） | | |
| 研 修 期 間 | 令和　６年　８月　７日（水）　～　令和　６年　８月　９日（金） | | |

１　研修の概要

はじめに研修で行う内容について説明を受けた。また、AIA の事業紹介や秋田県の国際化の現状などについて説明をしていただき、秋田県内の外国人の動向を知ることができた。全国的に外国人の人口は増加傾向にあるが（東日本大震災や covid-19 の影響により減少したケースもある）、秋田県はまだまだ少ない方であるということがわかった。しかし、それでも外国人人口は今までにない勢いで増加しており（特に中国やベトナム、韓国など）、それにともない「外国につながる子どもたち」も増加していくと考えられ、教育現場ではそのような変化に対応できるよう求められている。全国的には愛知県や大阪府、東京都などを中心に、そのような子どもたちへのサポートができるようにガイドブックやマニュアルのようなものが整備され始めつつある。隣県の青森では「外国につながる子どもの教育支援ガイドブック―多文化共生の学校づくりに向けて―」という冊子が発行され、支援の現状や方法、各学校での支援例などのような様々な資料が記載されている。教員はこのような情報を積極的に取り入れ、社会の変化に対応していかなければならない。社会的なニーズが増大していることを知ることができた。

また、「やさしい日本語」についての研修及び演習を行った。「やさしい日本語」とは外国人にとって理解しやすい日本語のことであり、特に災害や非常事態などの緊急時に効力を発揮するものである。これは阪神大震災に日本語を理解できない外国人が多く、被災したときに迅速に正しい行動をとれない問題が発生したため、外国人にとってより簡便な理解しやすい日本語を使うという取り組みが広がっていったものである。例えば、複文やカタカナ語、名詞修飾節などは外国人にとって理解は難しい。日本語能力試験（JLPT）において N4 レベル程度の日本語で書くことが求められる。現在では弘前大学などで研究が進められており、文化庁ではガイドブックの作成も行っている。

他、AIA では国際フェスティバルの準備業務やインターナショナルデイの参加及び運営を行った。秋田県内では多くの国際交流イベントが開催されており、県内各地から在日外国人がサポーターとして参加する。現状の問題点としては、マンパワーが不足していることや周知があまりされていないことなどがあり、県民および外国人に積極的に参加してもらうためにどのような策を講じればよいか、今後考えていかねばならない。インターナショナルデイとは国際支援員と呼ばれている在日外国人の方や県内の留学中の外国人の方を招き、日本人と交流会を行うものである。木曜日や土曜日に実施されているが、このイベントについても参加者は毎回 10 名以下となっており、今後も積極的に参加を呼びかけていかねばならない。

AIA では秋田県内の国際交流イベントだけでなく、外国人への生活支援や就学支援に注力していることがわかった。

２　研修の成果（今後への生かし方も含むこと）

本研修において（１）「やさしい日本語」の普及、（２）国際イベントの開催、（３）学校現場における教育支援の３点にわけて成果と課題について説明したい。

（１）「やさしい日本語」の普及

やさしい日本語は一般的にあまり浸透していない概念であるが、今後、秋田の国際化が進んでいったときに県民の理解が必要になる。昨今、水害や獣害も多く、それをストレートに外国人に伝える方法としてやさしい日本語を使うことが大切だと思う。日本人の先入観で、外国人は英語ができるとも思われがちであるが、得意としてない在秋田外国人も多く在住している。そのような現状から、N4 程度のやさしい日本語を県民の中で浸透させていくことが、外国人が暮らしやすい町づくりに貢献するのではないかともう。例えば、カタカナ語は外国人に伝わりやすいと思われることが多いが、実際は苦手とする外国人が多い。これは英語の発音との違いによるものである。このような認識の違いから、円滑な意思疎通が行うことができない可能性が生じる。私はこのような情報や実際にやさしい日本語を生徒たちにも紹介をして、秋田県を国際的な活気ある県にできるようにしていきたいと思う。

（２）国際イベントの開催

AIA では国際イベントを多く実施している。秋田県の外国人人口の数は急増しているものの全国的にはまだまだ少ないのが現状である。そのため、海外に対する誤認識やステレオタイプなどがまだまだ存在している。国際イベントを開催しても、小学生は集まるが、中学生や高校生は集まらないのが現状であり、

そこも課題としてあげられる。
　例えば、インターナショナルデイには大学に在籍する留学生がゲストで訪れることもある。中高生にとっては海外の同じ世代の話を聞けたり、意見を交換できたりすることは非常に有意義であり、このようなイベントを生徒たちへ積極的に紹介していく必要があると感じた。
　国際イベントの意義は、やはり他文化と接触することによって新たな価値観と出会えることである。それはプラスの印象を持つかもしれないし、マイナスの印象を持つかもしれない。しかし、自分自身の内面の常識を改変したり、新たな刺激をもらったりすることで、自身の価値観をアップデートすることができる。小中高生の間にこのような機会があることは非常に有意義である。
　AIA に頼るだけでなく、私自身のマレーシアでの経験・体験を話したり、学生たちに協力してもらってイベントを行ったりして、生徒の内面を刺激できるように考えていきたい。

（３）学校現場における教育支援
　都道府県の各所で外国につながる子どもの教育支援は行われているが、地域によって、中国人が多かったり、フィリピン人が多かったり、その様態は様々である。つまり、その現状に合わせた支援の体制を取っていく必要がある。特に秋田では、特定の学校に固まらずに外国につながる子どもたちは、様々な地域や学校に分散していることが傾向としてわかっている。そのために、各学校ではそのような数名のための支援が充実していないケースがある。取り出しや入り込みをするサポーターの数も限られていたり、特別の教育課程を編成することができていない等の現状もある。個別最適な支援がいま求められている。また、生活言語能力と学習言語能力のちがいを周りが理解できないという問題も存在する。生活するために必要な生活言語能力は数年で身につくとされ、特に小学生段階では渡日後、数年で日本人とコミュニケーションがとれるようになることはしばしばある。しかし、生活言語能力と学習言語能力は別のものであり、学習するための学習言語能力は習得に 5 年以上かかることも普通にある。そのため、「この生徒は普通にコミュニケーションがとれるのに、テストの点数はなんで悪いんだろう。」のようなことが起こる。これは 2 つの能力の差の問題であるので、至って普通のことである。しかし、学習障害やその他発達障害などのような誤った解釈をされることも少なくなく、正しい理解と対応が私たち教員には求められている。人数は今は多くないが、近い将来、教室が多国籍な環境となることも考えられる。今私たちにできることは、個別最適な支援の方法を学び、考えていくことであり、他都道府県の事例も参考に私自身学んでいきたいと考えている。

# 選　択　研　修　報　告　書

| 所　属　校 | | 職・氏名 | |
|---|---|---|---|
| 研　修　先 | フェライト子ども科学館 | | |
| 研 修 期 間 | 令和６年８月９日（金）　～　令和６年８月１１日（日） | | |

１　研修の概要

８月９日（金）　午前：施設紹介、来館者補助
主に展示物の来館者への説明や、限定開催の「永久磁石を作ろう」を担当した。

午後：米村でんじろう実験教室準備
科学館隣のコミュニティーセンターのホールで実験教室を行うため、機材の運搬や会場設営を行った。また、翌日の手順確認と見本作成を行った。

８月１０日（土）終日：米村でんじろう実験教室補助
テーマ【回転の科学～手作りこまでバトルしよう】
来場者受付と各テーブルでの工作指導を行った。実験のテーマは回転で、ベーゴマの玩具をイメージした対戦できるコマを作り、子ども達同士で対戦し、順位を競った。

８月１１日（日）終日：米村でんじろう実験教室補助、イベント終了後会場撤収
テーマ【飛ばして遊ぼう！古代の道具「カタパルト」作りにチャレンジ】
前日同様、来場者受付と各テーブルでの工作指導を行った。実験のテーマは飛ばすことで古代の巻きバネの原理を用いた、ねじった紐の弾性力を利用したカタパルト（発射台）を作った。これを使い、玉を飛ばして的入れで点数を競った。
イベント後、会場の復元と米村プロのスタッフの方々と科学館内を見学した。

２　研修の成果（今後への生かし方も含むこと）

この研修では、米村プロダクションによるイベントでの補助スタッフとしての業務が主なものであった。そこで、米村プロによるサイエンスショーを間近で感じることができ、テーマの選定や、実験の見せ方などプロの仕事を学ばせてもらうことができたと思う。米村でんじろう先生をはじめとする、スタッフの方々の観衆を惹きつける話し方や、実験の技術、説明の仕方など誰にでも伝わるような表現と内容であった。日本全国でのイベントやメディアへ出演する人気は、そのような確かな実力によるものであると思った。

また、科学館スタッフのイベントに対する念入りな準備は大変細かなものであった。これまでも同様のイベントを数多く開催し、様々な失敗もあったらしく、そのうえで運営が円滑に進むようアップデートされてきていることが感じられた。今回のイベントのメインは工作であり、その工程は大人でも戸惑う箇所のある内容であった。本番で想定されるトラブルをなるべく抑えることで、その時の来場者への補助に徹することができた。見通しを持ち準備を進めたとしても、本番では想定外のことが起こるのだから、準備は徹底的に行うことは本番の充実につながると改めて感じた。

イベントの準備は授業への準備と似ている。一回の授業で何を生徒たちに身に付けさせるかを考え、その授業に集中するためにはしっかりとした準備が必要になる。準備をするからこそ、見えてくる課題もあるだろうし、授業中に眼の前の生徒の反応に集中できる。日々の業務の中で、授業の準備がなおざりになることもあるが、基本に立ち戻り教材研修の時間を設けたい。これまでの勤務の中で、上手くいかなかった授業もたくさんあるので、そういった反省は思い出し授業の糧としたい。

また、今回は同じ研修で３名の先生方と一緒になった。教科や校種はそれぞれであったが、各々の勤務

先の話や立場での話を共有することができた。校内での分掌など細かな違いはあるにせよ、中堅研という同じ境遇でのお互いの話は、新しい気づきや深い共感があった。こういった、似たような境遇の、近隣の先生方と知り合うことができ、大変励みになった。

そして、理科教員として最も大切なことは科学の魅力を生徒たちへ伝えていくことであると思う。理科は嫌いという生徒は実際に多いと感じている。生徒が苦手とする理論や公式は、理科を学ぶうえでは、いずれ必要になってくることであると思う。しかし、理科の魅力を感じることができればそういった内容への意欲も高まると思う。米村プロの皆さんは確かな知識と、多角的な方法で「おもしろい」と子どもたちを思わせることができていると感じた。そして、指導者自身が楽しいと思えることが大切だと思う。教員として、指導要領の内容を伝えるためにその背景や先にあることを学び、授業改善を常に意識していきたい。

# 令和６年度　秋田県立西目高等学校　保健室経営計画

養護教諭

| 学校教育目標 |
|---|
| 自彊不息の精神のもと、心豊かで高い志にあふれる人材を育成する。 |

⇩

| 学校教育方針（保健安全に関わるもののみ） |
|---|
| 豊かな人間性を育み、社会を生き抜く資質と能力を育成する。 |

⇩

**学校保健目標**

１．生徒の健康の保持・増進や教育環境の向上に努め、保健管理の徹底を図る。

２．各分掌や教育等と連携を図り、生徒の主体性を育成する保健教育を推進する。

**重点目標**

① 他の教職員との連携を密にし、安全に学校生活を送るための支援を行うとともに、自己の健康状態に関心を持ち自主的に健康管理できるよう支援する。

② 生徒の健康状態についてまとめ、他の教職員、他の分掌と密に連携をとりながら、心身の健康問題の早期発見と早期支援を行う。

⇦

**児童の主な健康課題**

◇体調不良で保健室利用する生徒が昨年より２８％増えている。友人との関わり方やトラブルについての相談が多い。

◇健康診断の結果、視力1.0未満の生徒が約６０％であった。

◇生活習慣の乱れから睡眠不足になり、心身の不調を訴える生徒が増えている。また、自立するために不可欠な食習慣に対する知識と実践力が低い。

◇自分の気持ちを表現することが苦手な生徒が多く、コミュニケーションにつまずき、心理的に不安定になることがある。

| 保健室経営目標 | 具体的な方策 | 評価 自己評価 よくできた | ほぼできた | あまりできなかった | ほとんどできなかった | なぜそうなったのか／今後に向けて 等 | 他者評価 だれから | 方法 | 意見・助言等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生徒の健康情報を関係職員に提供し、連携して生徒の自己管理能力を高める | A）要精査の生徒情報を担任および部活動顧問に提出し、早期受診のための協力を得る。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | 教職員統計 | 聞き取り 受診状況 | |
| | B）個別指導、継続指導により心電図検査、尿検査の精密検査率を8月末までに100％にする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | 生徒統計 | 聞き取り 受診状況 | |
| | C）健康診断の結果一覧を配付し保護者の理解と協力を得る。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | 保護者生徒 | 聞き取り 学校評価 | |
| | D）保健室来室状況をまとめ、職員会議等で情報共有する。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | 教職員 | 聞き取り 学校評価 | |
| 心身の不調を早期発見し、自主的に改善できるよう、連携して支援を行う | A）心身の健康の状態をまとめ、面接週間の際の資料や進路指導に活用してもらう。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | 全担任面談者 | 聞き取り | |
| | B）頻回来室、気になる生徒について関係職員と密に情報交換を行い、必要に応じてカウンセリングにつなげる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | S教職員 C | 聞き取り 経営評価 | |
| | C）来室時の聞き取りを丁寧に行い、担任、保護者と情報を共有し、生徒が健康管理上の問題に気づき、自主的に改善する実践力を育てる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | 教職員生徒・保護者 | 聞き取り 学校評価 | |

# 健康課題解決に向けた保健教育の実践

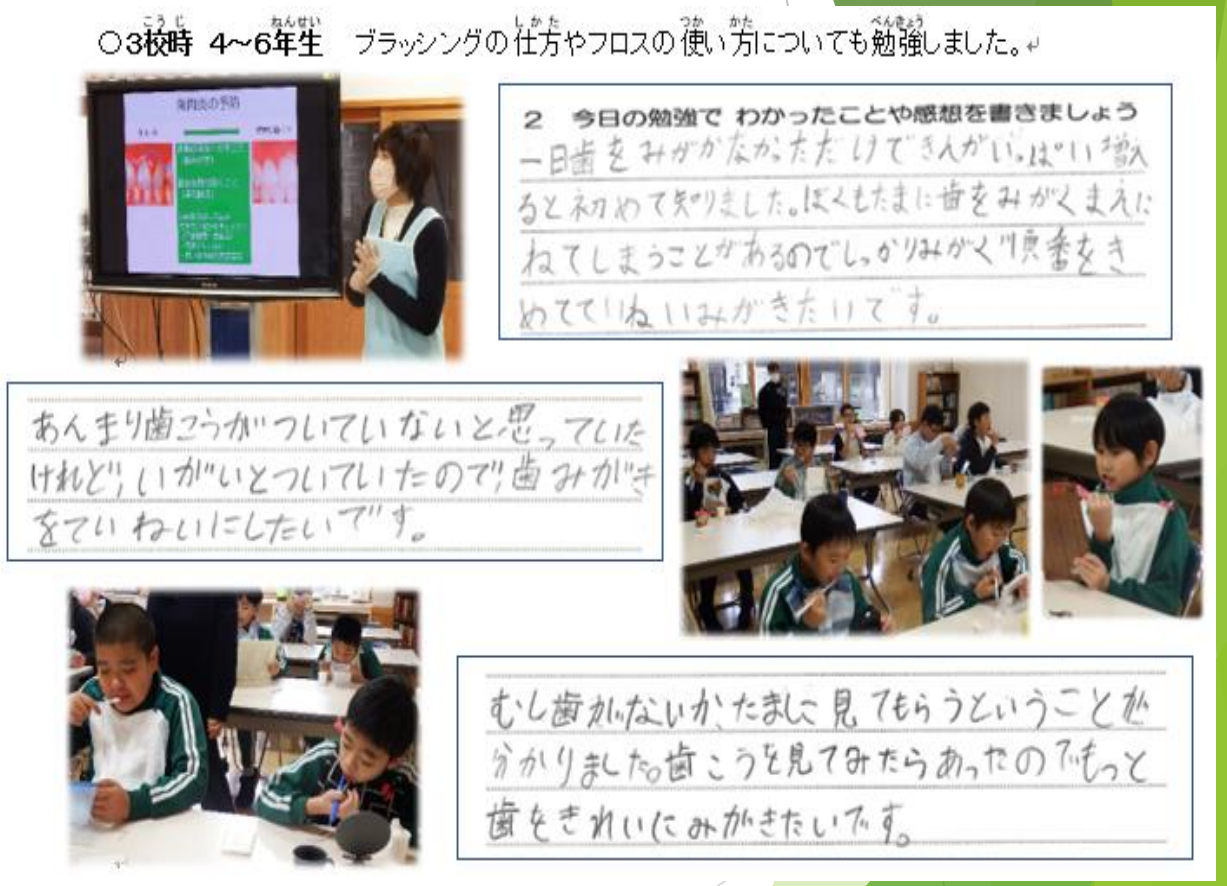
西目高等学校

# 保健指導①:手洗い指導

朝学習時間にミニ手洗い指導

# 保健指導②：歯科指導

11月8日（いい歯の日）に指導



○3校時　4～6年生　ブラッシングの仕方やフロスの使い方についても勉強しました。

2　今日の勉強で　わかったことや感想を書きましょう

一日歯をみがかなかっただけできんがいっぱい増えると初めて知りました。ぼくもたまに歯をみがくまえにねてしまうことがあるのでしっかりみがく順番をきめてていねいみがきたいです。

あんまり歯こうがついていないと思っていたけれど、いがいとついていたので、歯みがきをていねいにしたいです。

むし歯がないか、たまに見てもらうということが分かりました。歯こうを見てみたらあったのでもっと歯をきれいにみがきたいです。

歯科衛生士さんを招いて歯磨き教室

# 保健室前掲示物

むし歯ゼロをめざそう

メディア機器との正しい距離

# 生徒委員会活動

- 学校祭での感染症予防ポスター展示

・保健委員に1人1枚作成してもらった
・11月下旬頃からは、換気等の感染症予防に関わる放送を行う

⇒生徒からの発信で感染症予防を行う

# 個別の保健指導

## 保健指導の対象者

①健康診断の結果、保健指導を必要とする者

**②保健室等での児童生徒の対応を通して、保健指導の必要性がある者**

③日常の健康観察の結果、保健指導を必要とする者

**④心身の健康に問題を抱えている者**

**⑤健康生活の実践に関して問題を抱えている者**

⑥その他

教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き　より

# 事例：朝の遅刻が目立つ1年女子生徒

〇学校へ遅刻して登校する、体育や農業の実習中に体調が悪くなり、保健室に来室

目標：遅刻なく、時間を守って登校することができる。

実技教科等で怪我、体調不良なく参加できる。

※生活習慣の見直しができるように指導した。

取り組み：①本人と現在の1日の睡眠時間や就寝、起床時間を確認した。

②自分で何時に起きると学校に間に合うことができるのか紙に書きながら一緒に確認した。

③睡眠不足になると集中力の低下やめまい、立ちくらみなどの症状がでることを説明。

④学級担任や学年主任に保健室での様子や保健室利用状況を情報共有した。

# 事例：朝の遅刻が目立つ1年女子生徒

学級担任：遅刻せず、学校に登校できるように継続的に声をかけてもらった。

養護教諭：保健室に来室した際に、健康状態、睡眠状態を聞き取り、遅刻しないようにするにはどうするべきか考えさせた。また、遅刻したことで「学校へ行きたくない。」と気持ちが向かないように遅刻しても学校にはくるように指導した。

↓

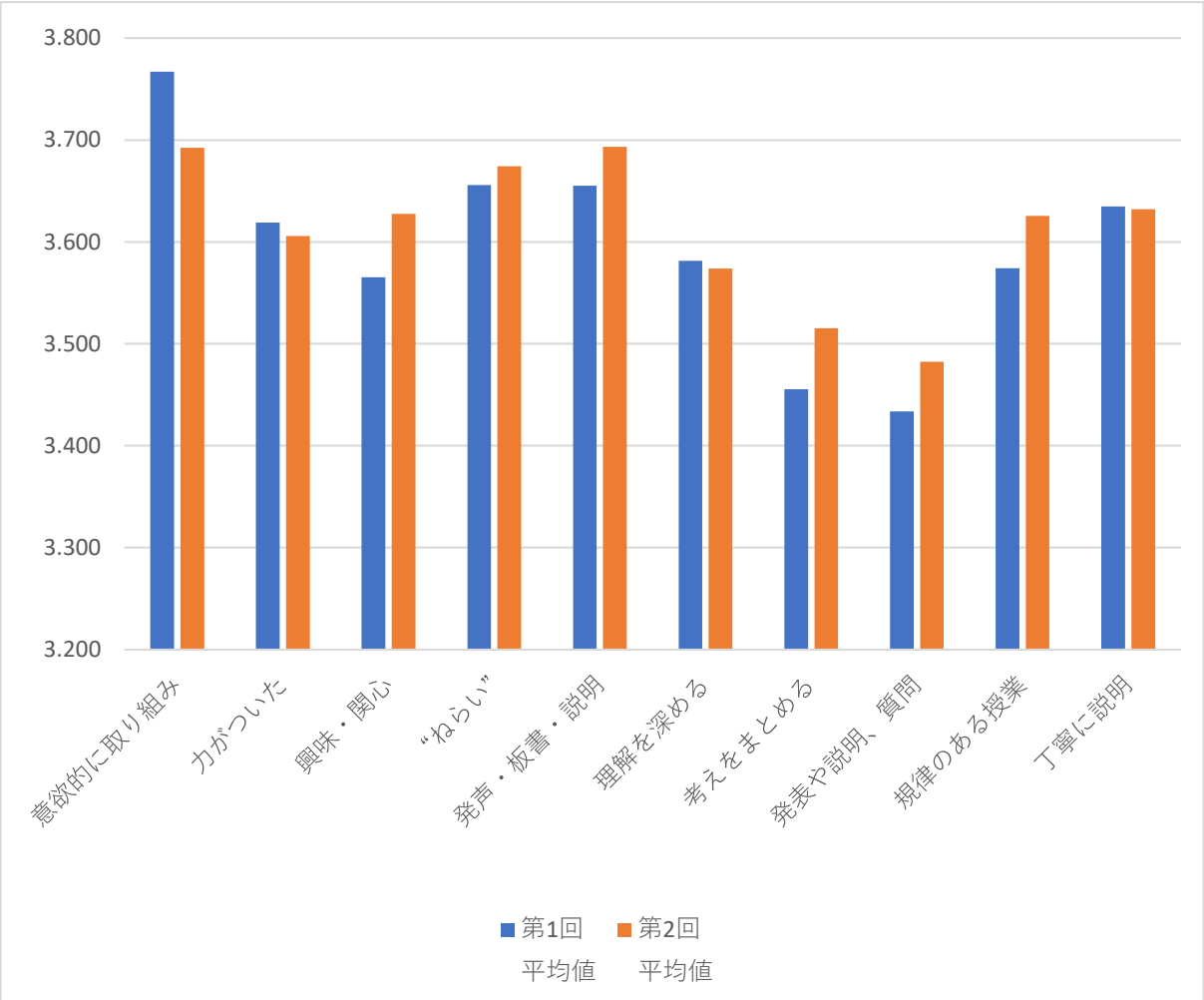
今までは自分が必要な睡眠時間について、あまり考えたことがなかったと話したが、確認するようにしてから次第に遅刻をしなくなり、登校できるようになった。体調不良等もなく、授業にも参加できるようになった。

ご清聴ありがとうございました。

# 令和６年度　授業アンケート　集計結果

「当てはまる」を４から「ほとんど当てはまらない」を１とする4段階アンケートを実施

| | | 質問項目　☒ | | 第1回<br>平均値 | 第2回<br>平均値 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生徒自身の評価 | 1 | 意欲的に取り組み | あなたはこの授業に集中して意欲的に取り組んでいる。 | 3.767 | 3.692 |
| | 2 | 力がついた | この授業を通して、教科の力がついて成長したと実感している。 | 3.619 | 3.606 |
| 教員への評価 | 3 | 興味・関心 | この科目に対する興味・関心を高めるよう工夫された授業である。 | 3.565 | 3.627 |
| | 4 | “ねらい” | 授業の“ねらい”をはっきり示している。 | 3.656 | 3.674 |
| | 5 | 発声・板書・説明 | 発声・板書・説明のしかたに気を配り、わかりやすい授業である。 | 3.655 | 3.693 |
| | 6 | 理解を深める | 授業の中に、じっくり考える時間や場面があり、理解を深めることができる。 | 3.581 | 3.574 |
| | 7 | 考えをまとめる | 授業の中に、文章などで自分の考えをまとめる時間がある。 | 3.455 | 3.515 |
| | 8 | 発表や説明、質問 | 授業の中に、発表や説明、質問する機会がある | 3.434 | 3.482 |
| | 9 | 規律のある授業 | 授業中の私語・居眠りなどについて指導され、規律のある授業である。 | 3.574 | 3.625 |
| | 10 | 丁寧に説明 | 生徒が理解するまで丁寧に説明してくれる。 | 3.635 | 3.632 |




分析結果

・生徒自身の評価である「１、意欲的に取り組み」と「２、力がついた」のポイントが１回目より２回目の方が低下している。

・教員への評価では、「６、理解を深める質問」「７、考えをまとめる時間」「８、発表・説明・質問の機会」に関するところが相対的に評価が低く、教員主導の授業が多いと推測できるが、２回目のアンケートでは数値が増え、概ね改善されてきている。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）1回目

教科名　国語科

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 佐藤幸二 | 文学国語（22、2k） | 49 | 36 |
| | 文学国語（3k1、3k2） | 60 | 52 |
| 安保天志 | 論理国語（3k2） | 33 | 33 |
| | 古典探究（3uv） | 21 | 19 |
| 冨樫純子 | 論理国語（21、22、23、24） | 101 | 91 |
| | 言語文化（13、14） | 48 | 41 |
| 齋藤達博 | 現代の国語（12、13、14） | 72 | 68 |
| | 計 | 384 | 340 |

アンケートの集計結果

| | 1回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.8 |
| 2 | 3.7 |
| 3 | 3.7 |
| 4 | 3.8 |
| 5 | 3.9 |
| 6 | 3.8 |
| 7 | 3.7 |
| 8 | 3.7 |
| 9 | 3.8 |
| 10 | 3.8 |
| 計 | 3.8 |

質問11　自由記述欄

・毎回の授業がとても楽しいです。
・内容をわかりやすく教えてくれるため理解しやすい。
・とてもわかりやすく、去年よりも理解力が上がったと思う。
・先生の絵を用いた教え方、とてもわかりやすいです。
・小論文の構成がわかりました。
・物語の内容を深掘りしていろいろ知れておもしろいです。
・プリントの穴埋めなどが内容を理解するときに活用できたので良かったと思います。

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

・生徒自身の自己評価、授業に対する評価、ともに高い数値で出てきており概ね満足できる。

・学習に取り組む基本的な姿勢（ノート・課題提出など）は良好、漢字や語句調べといった「作業」には比較的集中して取り組めている。

・じっくり考えたり、自分の言葉で表現（発表したり書いたり）することには慣れていない。授業内でその時間を設けてはいるが、個人によって大きな開きがある。

・家庭学習の習慣のない生徒が多いので、授業の内容が家庭学習の増加につながるような仕掛けがほしい。

・生徒を動かす授業を意図的に増やすつもりで取り組んでいるが、各単元で必ず一回は実施していきたい。

・単元の振り返り等で文章で表現させようとしても箇条書きや単語、一文程度にしかならず、論理的な表現力や思考力に乏しいと感じる。そこで、具体と抽象、原因と結果などの関係を明確にすることをスモールステップとし、その先に文章で表現する機会をつくり、論理的な思考を促したい。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）2回目

教科名　国語科

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 佐藤幸二 | 文学国語（2v、22、2k） | 53 | 47 |
| | | | |
| 安保天志 | 論理国語 | | |
| | 古典探究 | | |
| 冨樫純子 | 論理国語（21、22、23、24） | 100 | 84 |
| | 言語文化（13、14） | 48 | 43 |
| 齋藤達博 | 現代の国語（11、12、13、14） | 96 | 83 |
| | 計 | 297 | 257 |

アンケートの集計結果

| | 2回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.6 |
| 2 | 3.6 |
| 3 | 3.7 |
| 4 | 3.7 |
| 5 | 3.8 |
| 6 | 3.7 |
| 7 | 3.6 |
| 8 | 3.6 |
| 9 | 3.6 |
| 10 | 3.7 |
| 計 | 3.7 |

質問11　自由記述欄

・勉強の仕方がわからなく、点数を上げることがなかなかできないので悔しい。
・黒板も先生の説明もわかりやすい。
・最後まで理解するまで説明してくれるところがとても助かります。
・優しくて面白いのでわかりやすくて楽しいです。
・先生の教えのおかげで論理的な理解が日々深まっております。
・一対一で教えてくれたおかげで論語の問題をたくさん正解することができました。
・読んだこともない文章問題でも解けるように、読解力をもっとつけたい。

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

・1回目と比較しても結果はほぼ横ばい状態。よく言えば安定しているとも見られるが、現状の小さな課題をクリアーできていないとも読むことができる。

・自由記述に多く見られるように、項目5「わかりやすい発声・板書・説明」では高い評価になるのが常であるが、それをもとにしてじっくり考えたり（項目6）、発表（項目8）に繋げたりすることへの指導がまだ弱いと考えている。受動的な学習態度であるものをいかに変容させることができるか、というところが一番の研究課題であろう。

・本校生徒は総じて自己評価を低く見積もる傾向があるように思うが、日々の授業の中で「国語力」の向上を実感させることはできていない。「本時の目標」を示してもそれが達成できているかの振り返りが不十分かつ不明確だからだろう。教科の特性もあると思うが、授業で身につけるべき「力」をよりわかりやすく伝えていく必要があるので、今後の課題としたい。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）1回目

教科名　地歴公民

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 佐藤佑飛 | 3uv地理総合 | 21 | 21 |
| 佐藤佑飛 | 3uv政治・経済 | 21 | 20 |
| 平野剛 | 歴史総合 | 90 | 97 |
| 藤田賢哉 | 22公共 | 22 | 25 |
| 藤田賢哉 | 3v日本史探究 | 7 | 6 |
| | | | |
| | 計 | 161 | 169 |

アンケートの集計結果

| | 1回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.6 |
| 2 | 3.3 |
| 3 | 3.3 |
| 4 | 3.5 |
| 5 | 3.3 |
| 6 | 3.1 |
| 7 | 3.1 |
| 8 | 2.9 |
| 9 | 3.2 |
| 10 | 3.3 |
| 計 | 3.3 |

質問11　自由記述欄

歴史総合は先生が電子黒板や教科書、資料集を使い一つのものに関して的確に説明してくれるからわかりやすい

中学の頃より詳しく物事を教えてくれるため非常に興味関心をもつことができる。

スライドがあって分かりやすいし細かいところまで授業で教えてくれるところがいいと思う

たのしい

いつもわかりやすい授業をしていただき、ありがとうございます。

あんまり楽しくない

授業外でも対応してくれる

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

歴史総合は「要点のみ取り上げて広範囲の歴史事象を総合的に理解する」という教科のコンセプトであるが、「要点のみ取り上げる」のは要するに「説明不足である」のと同義であり、歴史の大きな流れを理解するにはある程度のディテールを掘り下げて説明する必要がある。ここ数年は進度をある程度度外視してディテールの説明に時間を割き、板書事項を省略する分スライドの内容で説明するようにしている。

中学校で「用語の無秩序な暗記」をしてきた生徒たちにとっては新鮮なようであるが、その分「自分で調べてわかる」時間をとることが出来ないでいる。歴史を「自分で調べてわかる」ためには「一次史料に直接当たる」しかないわけで、こちらが準備した「資料」の中からアイテムを見つけ、筋書き通りの答えを出すのでははじめからストーリーが決まったゲームシナリオをプレイしているのと変わらない。オープンワールド式のゲームのように生徒が史実を自在に行き来して自分なりの「史観」を構築するのが理想なのだが・・・。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）2回目

教科名　地歴公民

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 藤田賢哉 | 22公共 | 25 | 23 |
| 藤田賢哉 | 21公共 | 25 | 13 |
| 平野剛 | 歴史総合 | 96 | 97 |
| 佐藤佑飛 | 3uv地理総合 | 21 | 13 |
| 佐藤佑飛 | 3uv政治経済 | 21 | 13 |
| | | | |
| | 計 | 188 | 159 |

アンケートの集計結果

| | 2回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.5 |
| 2 | 3.3 |
| 3 | 3.3 |
| 4 | 3.5 |
| 5 | 3.2 |
| 6 | 3.1 |
| 7 | 3.1 |
| 8 | 2.9 |
| 9 | 3.2 |
| 10 | 3.3 |
| 計 | 3.24 |

質問11　自由記述欄

・歴史を知れて楽しいです
・テストの対策プリントを渡すのを、もう少し早くしてもらいたいです。
・黒板の文字の間隔を少し開けてほしいです
・歴史総合は先生が電子黒板や教科書、資料集を使い一つのものに関して的確に説明してくれるからわかりやすい
・中学の頃より詳しく物事を教えてくれるため非常に興味関心をもつことができる。
・スライドがあって分かりやすいし細かいところまで授業で教えてくれるところがいいと思う
・たのしい
・いつもわかりやすい授業をしていただきありがとうございます。
・わかりやすい

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

各担当は深い学びを達成させようと毎年努力している。しかし、最近の歴史総合、地理総合、公共、これらの科目は広く浅い内容であり、そこから深い学びを導き出すのは難しい。ある程度内容を精選させて、時間をかけないと生徒の興味関心は深くならないところが、もどかしく思う。授業で興味をもち、生徒自身が調べるという形が理想であると思うが、やはり興味関心を引き出す授業を心がけることが重要であるので、今後とも精進したい。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）1回目

教科名　数学

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 橘教頭 | 1(34)k数A, 2ae数A | 40 | 33 |
| 佐々木充宏 | 2(134)k, 22, 2c, 2uv数学Ⅱ, 3uv数学C | 89 | 82 |
| 佐藤朋紀 | 数学Ⅲ, 数学総合演習, k1, k2数学Ⅱ | 92 | 79 |
| 大石敏孝 | 11, 12, 13, 14数Ⅰ, 1uv数A | 116 | 101 |
| 堀内大介 | 2uv数B, 3ae数学総合活用, 1(12)k数A | 55 | 49 |
| | | | |
| | 計 | 392 | 344 |

アンケートの集計結果

| | 1回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.7 |
| 2 | 3.5 |
| 3 | 3.5 |
| 4 | 3.7 |
| 5 | 3.6 |
| 6 | 3.7 |
| 7 | 3.4 |
| 8 | 3.6 |
| 9 | 3.7 |
| 10 | 3.6 |
| 計 | 3.6 |

質問11　自由記述欄

数学はむずかしくて、いやになるときがあるけど、わかると楽しい。
これからもがんばっていきたい
難しいけど、ためになる。これから活用していきたい。
自分で考える場面と前回の授業で習ったところをプリントで復習
するから身につきやすいなと思う授業でとても楽しいです。
わかりやすい
わかるまでちゃんと教えてくれて助かってます。
簡単な解き方を教えてくれてわかりやすい
授業内容を詳しくだけどわかりやすく説明してくれるのでしっかり理解できる。
自分の力で考える時間があるため、自分が本当に理解しているのかが確かめることができる。
数Ａはとてもわかりやすい授業です。細かいところまでしっかりと教えてくれるのがいいです。（納得するまで）

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

・質問3の「興味・関心を高めるような工夫がされた授業であるか」の評価が低い。板書中心の授業を展開していることが原因であると思う。今後は、実生活や日常にある数学などを紹介して、興味・関心を高めていきたい。

・質問7の「文章などで自分の考えをまとめる時間がある」の評価が低い。質問6のじっくり考える時間や場面は確保できているので、今後は振り返る時間などの確保をしていきたい。

質問項目では「授業の中に、文章などで自分の考えをまとめる時間がある。」が明らかに低い評価となった。考査の区切りで自己評価シートを文章にまとめさせているが、普段はそのような機会を作っていないためだと把握している。実施することのメリットはあると感じつつも、時間が掛かることが明らかなデメリットであるため短時間でできるものを検討したい。

自分の考えをまとめたり、授業の振り返りをする時間を確実に設定することで、この授業で何が分かるようになったか、何ができるようになったかを実感させることで、質問2、質問7について改善を図る。
　質問3については、数学のこの内容は実社会にどのようにつながっているか等、身近な例と結びつけることで興味・関心を高めていきたい。また、分かる授業が興味・関心につながるため、そのような授業を実践していきたいと考えている。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）2回目

教科名　数学

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 橘教頭 | 1(34)k数A,2ae数A | 40 | 31 |
| 佐々木充宏 | 2(134)k,22,2c,2uv数学Ⅱ,3uv数学C | 89 | 77 |
| 佐藤朋紀 | 数学Ⅲ,数学総合演習,k1,k2数学Ⅱ | 92 | 79 |
| 大石敏孝 | 11,12,13,14数Ⅰ,1uv数A | 113 | 78 |
| 堀内大介 | 2uv数B,3ae数学総合活用,1(12)k数A | 55 | 38 |
| | | | |
| | 計 | 389 | 303 |

アンケートの集計結果

| | 2回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.6 |
| 2 | 3.5 |
| 3 | 3.5 |
| 4 | 3.7 |
| 5 | 3.6 |
| 6 | 3.6 |
| 7 | 3.5 |
| 8 | 3.7 |
| 9 | 3.6 |
| 10 | 3.6 |
| 計 | 3.6 |

質問11　自由記述欄

・分かりにくいところは答えを教えるのではなくヒントを教えてくれるのが良かった。

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

・授業内容と指導についての評価は、全項目において1回目より良い数字となっている。

・数学の問題を考えたり、質問し合う時間は取っていが、その時間に組み入れるなどの検討の余地があるかもしれない。

質問2. 授業を通して、教科の力がついて成長したと実感」、質問3.「興味・関心を高めるよう工夫された授業」、質問7.「文章などで自分の考えをまとめる時間がある」の値が低い。これは1回目のアンケートでも値が低く、課題と感じていたものである。

質問2、質問7については、自分の考えをまとめたり、授業の振り返りをする時間を確実に設定することで、何が分かるようになったか、何ができるようになったかを実感させることで改善を図るつもりであったが、実践できなかった。今後授業で扱う内容は生徒にとって理解しずらいものになるため、今まで以上に学習意欲を高める工夫をしていきたい。

質問3については今まで以上に、数学のこの内容は実社会にどのようにつながっているか等、身近な例と結びつけることで興味・関心を高めていきたい。

**1回目と2回目の結果について大きな違いは見られなかった。数学は単元により生徒の反応や理解度に大きな差が見られるので、単元ごとに生徒の評価を見てみたい。**

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）1回目

教科名　理科

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 渡會　諭 | 生物基礎 | 70 | 45 |
| 渡辺　拓人 | 化学基礎１１・化学基礎１２ | 49 | 45 |
| 川村　翔栄 | 2u化学・2C化学 | 12 | 12 |
| | | | |
| | 計 | 131 | 102 |

アンケートの集計結果

| | 1回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.6 |
| 2 | 3.3 |
| 3 | 3.6 |
| 4 | 3.7 |
| 5 | 3.6 |
| 6 | 3.5 |
| 7 | 3.2 |
| 8 | 3.2 |
| 9 | 3.4 |
| 10 | 3.6 |
| 計 | 3.5 |

質問11　自由記述欄

（生物基礎）
生物とても難しいけど楽しいです。
ちょっとわかりにくい授業だった…
次は高い点数をとれるように頑張ります！！
意外と覚えることが多い
生物基礎に興味を持って取り組むことができました。
わかりやすい授業です。
ワークやノートなどの提出がなく素点で決まるから勉強をしっかりしようと思える
生物頑張ります。
（化学基礎）
化学基礎は自分たちが理解するまで先生が説明してくれるのでしっかりと理解ができる
（化学）
実験たのしいです。
分かりやすいです。
興味を持って取り組むことができました。
1年のときにわからなかった酸化とかがわかるようになった。
川村先生よろしくおねがいします。
単位数が多いです。
授業少人数でゆるくて楽しいです。

授業評価の結果から見えてきた課題と改善方法について

基本基礎の定着を踏まえ、座学を通して授業展開してきたが、やはり実験を組み込んだ展開が最善であると考えられる。ただ、実験室の薬品の整理など整備を使える状態にしなければならないことや、授業数や分掌業務で準備の時間が上手くとれず、工夫が必要である。

考査の難易度は各科目でバランスがとれており、問題はない。しかしながら現在の知識が以降につながることが多いため、問題演習などを取り入れながらカリキュラムを進めていきたい。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）2回目

教科名　理科

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 渡會　諭 | 生物基礎 | 76 | 32 |
| 渡辺　拓人 | 化学基礎１１ | 25 | 21 |
| | 化学基礎１２ | 23 | 20 |
| 川村　翔栄 | 化学 | 12 | 11 |
| | | | |
| | | | |
| | 計 | 136 | 84 |

アンケートの集計結果

| | 2回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.5 |
| 2 | 3.4 |
| 3 | 3.6 |
| 4 | 3.6 |
| 5 | 3.6 |
| 6 | 3.5 |
| 7 | 3.4 |
| 8 | 3.3 |
| 9 | 3.5 |
| 10 | 3.6 |
| 計 | 3.5 |

質問11　自由記述欄

このままの授業で大丈夫です！！

自分が説明してるときは聞いて説明終わったらノートに書いてといわれたから、言われたとおりにしようとしたらみんな書き終わったからってスライド次のにしてて、普通にノート取れないです。

先生のたまにある雑談面白いﾃﾞｽ

先生の話面白くて毎回たのしみにしてます

これからもがんばろ♡

がんばります

これからも頑張りたい

化学式難しい　あとモルの計算

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

・授業内でのまとめや発表などの機会が少ない。

・説明に時間がかかってしまうことが多い。

・教材を工夫し、時間管理を徹底する。

・物質量のような定量的な内容が中心だったため、生徒の自己評価は前回よりも下がった傾向になる。
全体が下がったというより、一部生徒が大きく下がったと感じるので、個別のフォローを意識したい。

・聞く書く時間を明確化し、授業展開していく。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）1回目

教科名　家庭科

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 佐々木幸 | 家庭基礎（１－１） | 25 | 24 |
| 佐々木幸 | 家庭基礎（１－４） | 24 | 23 |
| 小園直子 | フードデザイン（３年） | 24 | 22 |
| 小園直子 | 保育基礎（２年） | 17 | 12 |
| | | | |
| | | | |
| | 計 | 90 | 81 |

アンケートの集計結果

| | 1回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.8 |
| 2 | 3.7 |
| 3 | 3.7 |
| 4 | 3.6 |
| 5 | 3.7 |
| 6 | 3.7 |
| 7 | 3.6 |
| 8 | 3.5 |
| 9 | 3.6 |
| 10 | 3.7 |
| 計 | 3.7 |

質問11　自由記述欄

〈家庭基礎〉
・大事なところをしっかり示してくれる分かりやすい授業です。
・楽しいです。
・家庭科の授業すごく分かりやすいです。

〈フードデザイン３年〉
・楽しいです。
・創作パングランプリに出場して上位を取ることができたので就職活動、面接に活かしていきたいです。そして、検定の勉強も同時にすることができて良かったです。
・調理実習を増やしてほしい。
・自由席強く希望します。

〈保育基礎２年〉
・将来役に立つことをしてとても楽しい授業です。いかしていけるようにしたいです。
・保育の授業が一番楽しいと感じます。
・保育の授業で保育の大学に行くための知識をもっとつけていきたいです。

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

1年生の授業「家庭基礎」について、3．5を下回ったのは、次の3項目である。
① 2の「授業を通して、教科の力がついて成長したと実感できる」
　各分野の内容を整理し、もう少し高めの目標を設定して授業を行う。
② 3の「この科目に対する興味・関心を高める工夫された授業である」
　視覚化する工夫（実物や動画の提示）や生徒同士の関わりを意識した授業展開を取り入れていく。
③ 9の「授業中の私語・居眠りなどについて指導され、規律のある授業である」
　授業中の私語は見られないので、居眠りがあるのだと考える。メリハリのある授業展開を行う。

専門教科の授業「フードデザイン」「保育基礎」について、3．5を下回ったのは、保育基礎2年の1項目である。
① 8の「授業の中に、発表や説明、質問する機会がある」
　実習がメインとなる授業で、説明をした後に質問をしやすい環境をさらに工夫していきたい。
　また、グループワーク等を取り入れ全体では発表することが得意でない生徒がグループ内で活動ができるように取り組んでいきたい。
② 調理実習や作業学習には意欲的に取り組んでいる。学習の目標を具体的に提示し、生徒同士が意見を出し合って実習できる教材等を今後も取り入れていきたい。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）2回目

教科名　家庭科

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 佐々木幸 | 家庭基礎（１－１） | 25 | 24 |
| 佐々木幸 | 家庭基礎（１－４） | 24 | 24 |
| 小園直子 | フードデザイン（３年） | 24 | 20 |
| 小園直子 | 保育基礎（３年） | 25 | 22 |
| | | | |
| | | | |
| | 計 | 98 | 90 |

アンケートの集計結果

| | 2回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.7 |
| 2 | 3.7 |
| 3 | 3.7 |
| 4 | 3.7 |
| 5 | 3.6 |
| 6 | 3.6 |
| 7 | 3.7 |
| 8 | 3.6 |
| 9 | 3.7 |
| 10 | 3.6 |
| 計 | 3.7 |

質問11　自由記述欄

〈家庭基礎〉
・良い授業です。
・授業が分かりやすい。
・分かりやすくて楽しい。

〈フードデザイン３年〉
・調理実習は、美味しかった全部。
・ぎょうざが美味しかった。
・フードが一番楽しかったです。ありがとうございました。
・弁当作り
・どの料理も美味しく作れたけれど、中でも親子丼が
　１番美味しく作れました。

〈保育基礎３年〉
・いろんなことができて楽しかったです。
　将来活かしていきたいです。
・２年間楽しかったです。

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

1年生の授業「家庭基礎」について
1回目の結果後に考えた改善策を実施し、2の「授業を通して、教科の力がついて成長したと実感できる」と9の「授業中の私語・居眠りなどについて指導され、規律のある授業である」は、いずれも3.5を超え、改善したが、 3の「この科目に対する興味・関心を高める工夫された授業である」については、1回目よりも数値が低下した。同じく、2クラスともに1回目よりも低下した項目が6の「授業の中に、じっくり考える時間や場面があり、理解を深めることができる」や10の「生徒が理解するまで丁寧に説明してくれる」であった。興味・関心を高める工夫を模索し、じっくり考える場面や時間を設定するなどして、理解を深められる授業が求められると感じた。

専門教科の授業「フードデザイン」「保育基礎」について
1回目の結果から、8の「授業の中に、発表や説明、質問する機会がある」 を意識した。グループワーク等を取り入れ、全体で発表する内容を取り入れた。また、発表について生徒一人ひとりが評価をしながら聞くことで生徒自身の様々な気付きを感じられた。
実習内容については、「幼児のおやつ実習」や「誕生日献立」等は生徒の意見を取り入れ実施した。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）1回目

教科名　芸術

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 小山華子 | 作曲 | 8 | 3 |
| 小山華子 | 音楽Ⅰ | 35 | 12 |
| 小山華子 | 音楽Ⅱ | 14 | 5 |
| 伊藤直哉 | 美術Ⅱ | 17 | 15 |
| 伊藤直哉 | 造形表現 | 20 | 20 |
| 三浦千恵 | 書道Ⅰ | 14 | 14 |
| 三浦千恵 | 書道Ⅱ | 6 | 6 |
| | 計 | 114 | 75 |

アンケートの集計結果

| | 1回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.9 |
| 2 | 3.7 |
| 3 | 3.8 |
| 4 | 3.8 |
| 5 | 3.8 |
| 6 | 3.8 |
| 7 | 3.6 |
| 8 | 3.4 |
| 9 | 3.5 |
| 10 | 3.8 |
| 計 | 3.7 |

質問11　自由記述欄

美術
・ものづくり楽しい
・ガチャガチャ完成させます！
・いつも楽しく美術ができてます。
・いつもアドバイスをしてくれてありがとうございます。
・美術を通して、身の回りの芸術に触れてみたいと感じます
書道
・自分が書いた作品にとてもわかりやすいアドバイス
・次に書くときに最初に書いたよりも上手に書くことができる
・毎日楽しい.
・先生の説明の仕方独特でわかりやすい.
・面白い！
・書道の授業しか勝たん
音楽
・大好き
・これから難しくなりそうで、ついて行けない気もして不安です
・いつも明るくて面白い先生とみんなだから、
　音楽の時間が楽しみです。これからもよろしくお願いします。

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

ものづくりは、準備や計画の難しさ、制作中の失敗など抵抗があり、苦手意識につながることもあるが、生徒達は制作することを楽しんでおり、作り上げる間に考えることや、上手くいったときの喜びを感じてくれているものと思う。作業を通して学ぶ課題をすすめてゆきたい。

書道科目の特性上、話すより実際に手を動かして書いてみないことには理解できない部分が多い。話す・考える・書くのバランスをうまく取りつつも、生徒がやる気を持って主体的に取り組める課題選定や授業づくり、声かけが必要。研鑽を進めていきたい。

1年生は全員楽しく元気に楽しんでいる様子が見られるが、2年生以上の音楽になると、専門科目になり、ただ楽しみたい・興味があるだけではついて行くのが難しい教科である。まず階名を全員が読めるところを足並みそろえたいが、そこでもうすでにつまずいている生徒が半数以上いる。「場所を覚えるだけ・暗記するだけ」でも相当な困難があるようで、こちらも、これ以上簡単にできないくらいの楽譜を用意し、かみ砕いて説明しているつもりであるが、分からないようだ。「わからない・出来ない」という思いが先走ってしまっている。その分、もう楽譜を読める人たちが暇を持て余していている状態なので、対策を考えたい。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）2回目

教科名　芸術

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 伊藤直哉 | 美術Ⅱ | 16 | 14 |
| 伊藤直哉 | 総合美術 | 21 | 21 |
| 小山華子 | 音楽Ⅰ | 33 | 21 |
| 小山華子 | 音楽Ⅱ | 14 | 9 |
| 三浦千恵 | 書と文化 | 10 | 3 |
| 三浦千恵 | 書道Ⅰ | 16 | 14 |
| 三浦千恵 | 生活の書 | 10 | 6 |
| | 計 | 120 | 88 |

アンケートの集計結果

| | 2回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.8 |
| 2 | 3.7 |
| 3 | 3.8 |
| 4 | 3.8 |
| 5 | 3.9 |
| 6 | 3.8 |
| 7 | 3.7 |
| 8 | 3.6 |
| 9 | 3.8 |
| 10 | 3.8 |
| 計 | 3.8 |

質問11　自由記述欄

美術
クリスマスツリー頑張ります！
美術の時間で、今まで以上に興味を持てるようになったと思う
楽しく授業できています。
音楽
授業いつも楽しいです♡
これからもしっかり音楽を学んでいきたいです
いつも楽しみにしています
書道
とっても楽しいです
授業でいろいろなことができてとてもたのしいし、
昔のことを知れて良いです。
授業の進む早さが丁度良い
来年もよろしくお願いします

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

三年生は多くの生徒が自主的に制作計画をし、楽しみながら取り組んでいる。
これまで、美術1，2やデザイン等の授業で取り組んできた課題を元に計画されている制作だけでなく、
高校三年生らしい、自分の感性、意欲で取り組む制作も見られ頼もしい。
今後もこのように自主的に制作し、芸術を愛好することに繋げてゆきたい。

生徒たちは音楽が好きではあるものの、自分の興味のあるものや流行しているもの、聴くことは好きだけど歌うことは極端に拒んだりということがあるので興味のあることにも無いことにも一生懸命取り組む姿勢を身に付けさせ、音楽の視野を広げられるようにしたい。

1年生は芸術科目選択の際第1希望で書道を選択している生徒が少なかったが、受講した生徒の多くは授業を有意義に感じたことがわかるアンケート結果で良かった。2・3年生は1年生で書道を選択していた生徒がほとんどなので技術も感性も磨かれてきている。今後も生徒が充実感達成感を得られる授業になるようにしていきたい。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）1回目

教科名　英語

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 亀谷　　彰 | 英語コミュニケーションⅡ(2uv) | 16 | 16 |
| | 英語コミュニケーションⅡ(22) | 26 | 23 |
| 嵯峨　育生 | 論理・表現Ⅰ(1uv) | 19 | 15 |
| | 英語コミュニケーションⅠ(11) | 25 | 24 |
| | 英語コミュニケーションⅠ(12) | 24 | 21 |
| 伊藤　花恵 | 英語コミュニケーションⅢ(3uv) | 21 | 21 |
| | 英語コミュニケーションⅡ(3k1) | 28 | 26 |
| | 英語コミュニケーションⅡ(3k2) | 32 | 31 |
| 宮塚　信博 | 英語コミュニケーションⅡ(3k1) | 13 | 12 |
| | 英語コミュニケーションⅡ(3k1) | 23 | 20 |
| | 論理・表現Ⅱ(2A) | 9 | 7 |
| | 英語コミュニケーションⅠ(13) | 24 | 23 |
| | 英語コミュニケーションⅠ(14) | 24 | 23 |
| | 計 | 284 | 262 |

アンケートの集計結果

| | 1回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.7 |
| 2 | 3.5 |
| 3 | 3.6 |
| 4 | 3.6 |
| 5 | 3.7 |
| 6 | 3.6 |
| 7 | 3.4 |
| 8 | 3.6 |
| 9 | 3.6 |
| 10 | 3.7 |
| 計 | 3.6 |

質問11　自由記述欄

2年生になってからちょっと難しくなってきたかも。
分かりやすい。
みんなと読む英語が楽しい。
ALTの授業がもっとほしい。
とても楽しいです。
少しずつ分かるようになってきた。
英語が好きになった。
英語は苦手で理解出来ていないこともあるが楽しい。
いつもありがとうございます。
詳しく分かりやすく教えてくれるので理解しやすい。
自分のためになっていると思うのでこれからも頑張りたい。
入学前よりかなり英語力がついてきていると感じた。
分かりやすくていい授業です。
難しい所も分かりやすく毎回楽しく授業を受けれています。

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

・授業のねらいを明確にした授業が展開できていないと反省した。開始時に本時のメニューを伝え、生徒が意欲的に取り組むことのできる授業を目指したい。(亀谷)

・7，8の値が他と比較するとやや低めになった原因として、丁寧に説明し過ぎる傾向があると思う。
教えるべきことを精選し、生徒に意見や考えをまとめさせて共有する時間をより設けるよう心がけていき;(嵯峨)

・ねらいの提示や授業の進め方については一定の成果が出ている。
2の自己評価がやや低い傾向にあるので、何かを学んだらそれを試しに使ってみる、のように学んだ内容を実際に使用する場面を増やしていきたい。(伊藤)

・この科目に対する興味・関心を高めるよう工夫された授業である。が特に低かった。英語を苦手とする生徒が多いため、過度な負担はかけず、少しずつ英語を読めたり、書けたりできるようにしてはいたが、興味・関心まで持てていないことがわかったので、今後は振り返りなどを工夫して興味・関心を高めていきたい。(宮塚)

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）2回目

教科名　英語

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 亀谷　彰 | 英語コミュニケーションⅡ（2-134） | 22 | 20 |
| | 英語コミュニケーションⅡ（2-2） | 25 | 19 |
| 嵯峨　育生 | 英語コミュニケーションⅠ（1-1） | 24 | 19 |
| | 論理・表現Ⅰ（1uv） | 17 | 15 |
| 伊藤　花恵 | | | |
| 宮塚　信博 | 英語コミュニケーションⅡ（2C） | 13 | 12 |
| | 英語コミュニケーションⅡ（2ae） | 22 | 21 |
| | 論理・表現Ⅱ（2A） | 9 | 9 |
| | 英語コミュニケーションⅠ（1-3） | 23 | 21 |
| | 英語コミュニケーションⅠ（1-4） | 24 | 18 |
| | 計 | 179 | 154 |

アンケートの集計結果

| | 2回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.7 |
| 2 | 3.5 |
| 3 | 3.6 |
| 4 | 3.6 |
| 5 | 3.7 |
| 6 | 3.6 |
| 7 | 3.4 |
| 8 | 3.6 |
| 9 | 3.6 |
| 10 | 3.6 |
| 計 | 3.6 |

質問11　自由記述欄

わかりやすい、同じ所を何度も確認してくれる。
ALTの授業が楽しい、もっと回数を増やしてほしい。
グループワークをもっとしたい。
ゆっくり丁寧に教えてくれる。
楽しいです。
論表は本格的な英語な感じがしているので難しい。
授業がわかりやすく理解しやすい。
楽しくて面白いです。
英語で友達と行う活動があって良い。
苦手だけど頑張ろうと思う。
進学に向けてこれからも勉強したい。
分かりやすく説明してくれるのが良い。
英語が得意になるように家でも勉強したい。

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

・質問項目2、6が前回から下がった。学んだことが定着していると実感している生徒が少ないことと、授業内で考える機会を十分設けていない点が課題である。改善するためには、グループワークなどを活用し意見を出し合う機会を増やすこと、振り返りの方法をもっと改善し何が達成できたのか考えさせること、を今後に向けて実施していきたい。

・3.この科目に対する興味・関心を高めるよう工夫された授業である。が前回の3．2から3．7に上がっていた。英語だけでなく日本語でも様々な活動を取り入れたことが向上につながった考えられる。これに満足することなく、さらに授業改善を行って、さらに興味・関心を持って授業に臨んでもらうよう努力していきたい。
他の質問も比較的点数が良かったので、今後は英語力を身につけさせていきたい。

・7，8の値が前回よりもアップした。説明し過ぎず、生徒間のやり取りから学ばせる活動を心がけたい。
・今後も生徒の現状を踏まえた授業を実践していく。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）2回目

教科名　農業

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 宮腰　明 | 2a作物 | 15 | 14 |
| 宮腰　明 | 2a農業機械 | 15 | 14 |
| 高川健悟 | ３年畜産 | 11 | 10 |
| 高川健悟 | ３年草花 | 11 | 10 |
| 高川健悟 | ２年草花 | 15 | 12 |
| 藤井堅人 | 1a農業と環境 | 15 | 15 |
| 藤井堅人 | 3a野菜 | 11 | 11 |
| | 計 | 93 | 86 |

アンケートの集計結果

| | 2回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.8 |
| 2 | 3.8 |
| 3 | 3.8 |
| 4 | 3.7 |
| 5 | 3.8 |
| 6 | 3.7 |
| 7 | 3.6 |
| 8 | 3.7 |
| 9 | 3.6 |
| 10 | 3.8 |
| 計 | 37.4 |

質問11　自由記述欄

・授業だけでなく、色んな外の研修に行けておもしろい。
・農業科学館など連れて行ってもらい、良い経験になった。
・現場研修が特に面白かった。
・スマート農業についての研修が楽しかった。
・トタクターの操縦がたのしかった。来年の田植えが楽しみ。
・バスで色んなところに連れて行ってもらい勉強になった。来年も行きたい。
・スマート農業について体験できたので良かった。
・果樹に関することも学んでみたい。

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

・農業に対する関心度は決して低くは無いが、座学に関しての意欲は全体的にやや低めに感じる。実技や外部連携には強い関心を寄せているので、産学官連携事業等で、将来の農業自営者育成を目指していきたい。

・気を遣ってもらいすぎでいて適正な値では無いように感じる。その中で、私語・居眠りについて気にしている生徒がいた。授業中の指導を徹底していきたい。

・生徒たちはおおむね意欲的に授業に取り組んでおり、授業を通して農業に関する知識や技術の習得を図ることが出来ていると考えられる。このため、生徒の意欲をさらに伸ばすことが出来るよう、実際に物を見せての授業など、生徒が関心を持ちやすくなる工夫を積極的に取り入れて授業を行っていきたい。
　この一方で、授業の評価の中で生徒自身の考えをまとめる機会や、意見などを発表する機会がやや少ないとの評価も見られている。生徒の思考力を伸ばすためにも今後の授業の中では、単元ごとに題材を決めて、それについて生徒が考え、クラス全体へ向けて発表を行うような機会を設けるようにしたい。
このほか、授業中の規律保持の点でもやや低い評価が見られている。生徒全員が集中して学習に取り組むことができるように、授業中の私語や居眠りなどへ一層注意するとともに、毅然とした態度での指導を心がけるとともに、継続的な指導を行っていきたい。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）1回目

教科名　工業

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 渡邊 | 測量 | 10 | 10 |
| 渡邊 | 構造設計１ | 13 | 13 |
| 進藤 | 測量 | 13 | 13 |
| 進藤 | 土木基礎力学２ | 16 | 16 |
| | | | |
| | | | |
| | 計 | 52 | 52 |

アンケートの集計結果

| | 1回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.9 |
| 2 | 3.8 |
| 3 | 3.5 |
| 4 | 3.7 |
| 5 | 3.6 |
| 6 | 3.5 |
| 7 | 3.6 |
| 8 | 3.6 |
| 9 | 3.6 |
| 10 | 3.6 |
| 計 | 3.6 |

質問11　自由記述欄

このままの授業を継続して欲しい。
授業中の指示がわかりやすかった。
メリハリがあって良かった。

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

図や写真を多く活用し、文章をなるべく少なくして目で見て覚えれる工夫をした。
グループでの活動をもう少し増やしていきたい
習熟度を把握し、個に応じた学習を改めて大切にしていきたい

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）2回目

教科名　工業

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 渡邊 | 測量 | 10 | 10 |
| 渡邊 | 構造設計１ | 13 | 13 |
| 進藤 | 測量 | 13 | 13 |
| 進藤 | 土木基礎力学２ | 16 | 16 |
| | | | |
| | | | |
| | 計 | 52 | 52 |

アンケートの集計結果

| | 1回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.9 |
| 2 | 3.8 |
| 3 | 3.5 |
| 4 | 3.7 |
| 5 | 3.9 |
| 6 | 3.5 |
| 7 | 3.6 |
| 8 | 3.6 |
| 9 | 3.9 |
| 10 | 3.6 |
| 計 | 3.7 |

質問11　自由記述欄

メリハリがあって良かった。
授業中の指示がわかりやすかった。
ついて行けないところがあった。

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

図や写真を多く活用し、文章をなるべく少なくして目で見て覚えれる工夫をした。
習熟度を把握し、個に応じた学習を大切にしたいと授業を行っていたが、わからないところがやはり出てしまった。課題の設定等の仕掛けを見直していきたい。

# 令和6年度　授業評価の分析・報告（教科まとめ）1回目

教科名　商業

授業評価を実施した科目（講座）

| 教科担任 | 科目名（講座名） | 在籍 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 村上 | ２ｅビジネス・マネジメント | 7 | 7 |
| 村上 | ３ｅマーケティング | 13 | 13 |
| 小玉 | １ｅ簿記 | 21 | 20 |
| 小玉 | ３ｅ実践 | 13 | 12 |
| 米澤 | ３ｅソフトウエア活用 | 13 | 13 |
| 畠山 | ２Ｃ１情報処理 | 18 | 17 |
| | 計 | 85 | 82 |

アンケートの集計結果

| | 1回目 |
|---|---|
| 質問1 | 3.7 |
| 2 | 3.7 |
| 3 | 3.5 |
| 4 | 3.5 |
| 5 | 3.6 |
| 6 | 3.5 |
| 7 | 3.2 |
| 8 | 3.2 |
| 9 | 3.6 |
| 10 | 3.6 |
| 計 | 3.5 |

質問11　自由記述欄

マーケティング:ＢＵＳＹＢＥＥの活動に活かせる
ビジネス・マネジメント:起業体験プログラムの活動に活かせる
簿記：始めの頃は理解できたが、だんだん難しくなってきた
総合実践：とても面白く、やっていて飽きない
情報処理：楽しい　次は１００点取りたい

授業評価の結果から見えてきた**課題と改善方法**について

難しい検定試験に挑戦する意義を伝える努力と、放課後の学習時間の確保に対するアドバイスが必要。

自分の意見をまとめ、発表する機会を増やす。

BusyBeeの活動や起業体験プログラムへの参加に関連する科目は、どの単元をどのように学ぶと効果的か、しっかり分析した上で授業を展開する。